



# 伊賀市都市マスタープラン 第3回策定委員会 資料

伊賀市建設部都市計画課  
2020（令和2）年10月29日

# 目次

1. 現行伊賀市都市マスタープランの概要	3
2. 現行都市マスタープランの検証と今後の課題	6
3. 将来人口推計よりみた今後の課題	14
4. 市民アンケート調査の概要と課題	22
5. 人口が減少する中で将来のまちの形	28
6. 都市マスタープランの主要課題のまとめ	52
7. 伊賀市の将来像(都市づくりの目標)	53



# 都市マスタープランとは

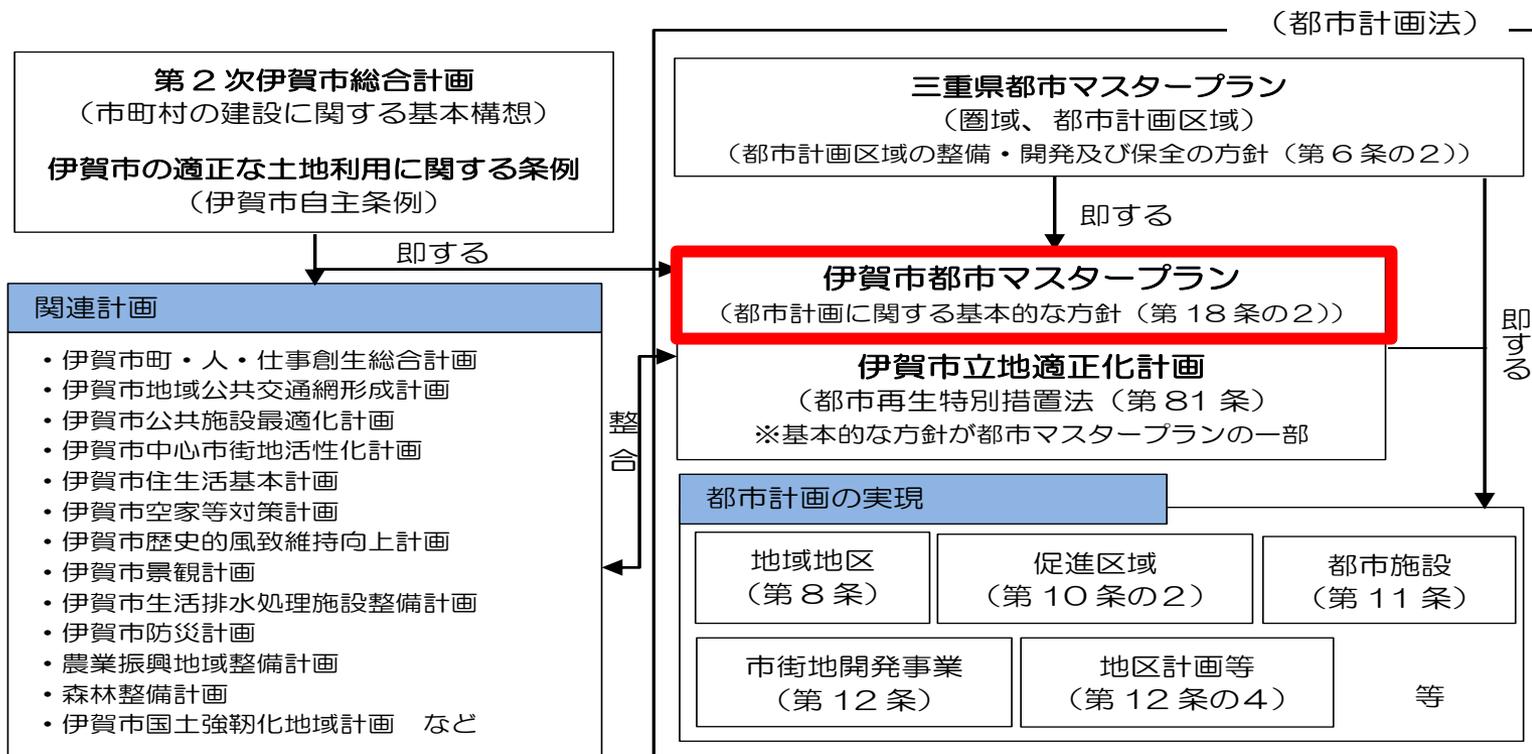
○市町村の都市計画に関する基本的な方針（都市計画法第18条の2）

第18条の2 市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条においては「基本方針」という。）を定めるものとする。

2 市町村は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、**公聴会の開催等住民の意見を反映させるため**に必要な措置を講ずるものとする。

3 市町村は、基本方針を定めたときは、遅延なく、**これを公表するとともに、都道府県知事に通知**しなければならない。

4 **市町村が定める都市計画は、基本方針に即したものでなければならない。**



■伊賀市都市マスタープランの位置づけ



# 伊賀市都市マスタープラン

## 伊賀市の将来像(現行伊賀市都市マスタープランより)

### 1) 都市づくりの理念

伊賀市の将来像  
は市の総合計画  
による

伊賀市の将来像

『 人が輝く、地域が輝く 』  
～住み良さが実感できる自立と共生のまち～

都市づくりの理念

“伊賀市特有の自然環境や都市の姿を継承しつつ、  
多様な連携と交流による持続可能な都市づくり。”

- 現存する上野・伊賀・阿山・青山の4つの都市計画区域の統合を目指します。
- 将来的に全市統一した制度の導入を基本とします。  
地理的条件、社会的・経済的条件等を考慮すると、伊賀市は一体の都市であり将来的には全市統一制度の導入を基本とします。
- 伊賀市都市マスタープランの土地利用の方針を実現可能な制度とします。

## 「多核連携型の都市構成」

- 地域独自のまちづくりが可能な制度とします。  
新たな統一制度は、地域ヒアリング等で示された地域の独自性あるまちづくりや地域課題を解決することを前提とします。

# 多核連携型の都市構成とは

上野中心部の市街地(広域的拠点)や各支所  
周辺部(地域拠点)等を市域、地域の中心として  
維持・発展させ、その拠点を中心に道路・公共交  
通ネットワークの連携を図ることで、**人口減少・高  
齢化が進む中でも生活の利便性を確保しようとする  
都市構成**

## 【広域的拠点】

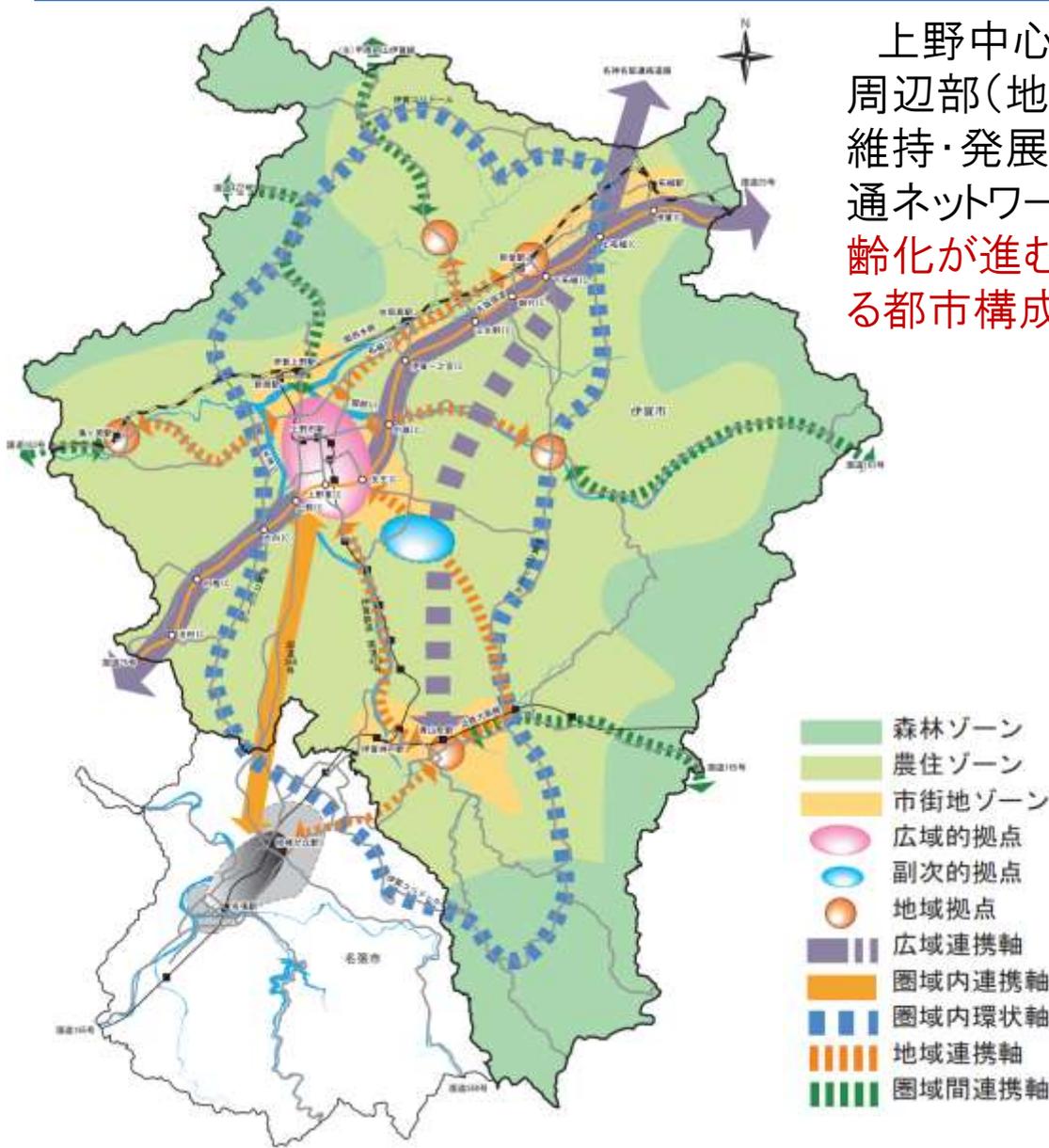
伊賀市中心部  
(上野中心市街地及び周辺地区)

## 【副次的拠点】

ゆめが丘及び周辺地区

## 【地域拠点】

伊賀 支所周辺地区  
島ヶ原支所周辺地区  
阿山 支所周辺地区  
大山田支所周辺地区  
青山 支所周辺地区





## 2. 現行伊賀市都市マスタープランの検証と今後の課題

都市づくりの課題	進捗状況の総括	今後の都市づくりの課題
①効率的な都市構造の構築	伊賀市立地適正化計画を策定し、都市機能、居住を誘導すべきエリアの明確化	実現のための戦略方針の策定（拠点の再考と具体化）
②適正な土地利用の実現	伊賀市全域に統一した土地利用制度として「土地利用条例」の施行	都市の将来像を踏まえ、土地利用条例の適切な見直し
③根幹的な都市施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年以上未整備の都市計画道路問題未解決</li> <li>・ 上野中心部等の公共下水道未整備問題未解決</li> </ul>	人口減少する中では、拡大型の都市施設整備ではなく、既存の市街地等への集中により魅力的な居住地づくり
④人口、居住地の適正配置	①と同じ	将来の人口推計をもとに適正な配置再考
⑤産業の振興	第2次産業は横ばいで推移しているが、第1次産業（農林業等）観光業等の伊賀の資源を活用した産業が衰退している。	1次産業（農業・林業）、観光、自然エネルギー、コミュニティビジネスなど内発的発展志向による産業振興の検討
⑥公共機関対策	地域公共交通網形成計画を策定し、つながりの強化に努めてきたが、公共交通の乗降客は減少を続けている。	人口減少や将来都市構造を踏まえた公共交通システムの見直し



都市づくりの課題	進捗状況の総括	今後の都市づくりの課題
⑦都市景観形成	伊賀市ふるさと風景づくり条例や伊賀市歴史的風致維持向上計画により伊賀らしさの保全	伊賀らしさの重要な要素ととらえ、歴史・文化・自然を将来都市構造として継承
⑧自然災害に強い都市構造	各種対策の実施は実施しているが、近年の災害は想定外	想定外の災害に対応した土地利用抑制策及び減災対策
⑨車中心の構造の改革	①効率的な都市構造の構築及び ②適正な土地利用の実現により歩いて暮らせるまちづくり推進	交通弱者に対する対策の充実
⑩中心市街地の活性化	中心市街地活性化基本計画による施策を実施したが、人口減少、空き家の増加等衰退の歯止めとはなっていない。	伊賀市の顔として広域的拠点（上野中心区域）の都市づくりの推進
⑪広域連携の促進（名張市との補完関係等）	・伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン策定 ・伊賀市・甲賀市・亀山市広域連携推進会議の充実	名張市も含め近隣市との連携等多様なネットワークの形成推進
⑫都市づくりのしくみ（市民意見が反映され、地域特性を生かし、市が一体となって発展する仕組み）	・自治基本条例の地域まちづくり計画を全自治協で策定 ・土地利用条例に地域によるまちづくりの仕組み組み込む	市民・地域とのさらなる協働・連携の強化



○都市計画道路の整備の遅れ  
都市計画道路の計画決定延長は、  
62.24kmで、整備率65.1%である。  
しかし、周辺部に比較して中心部の  
整備が遅れており、特に、中心市街  
地では整備が遅れ、整備の目途も  
たたない状態である。

## 凡例

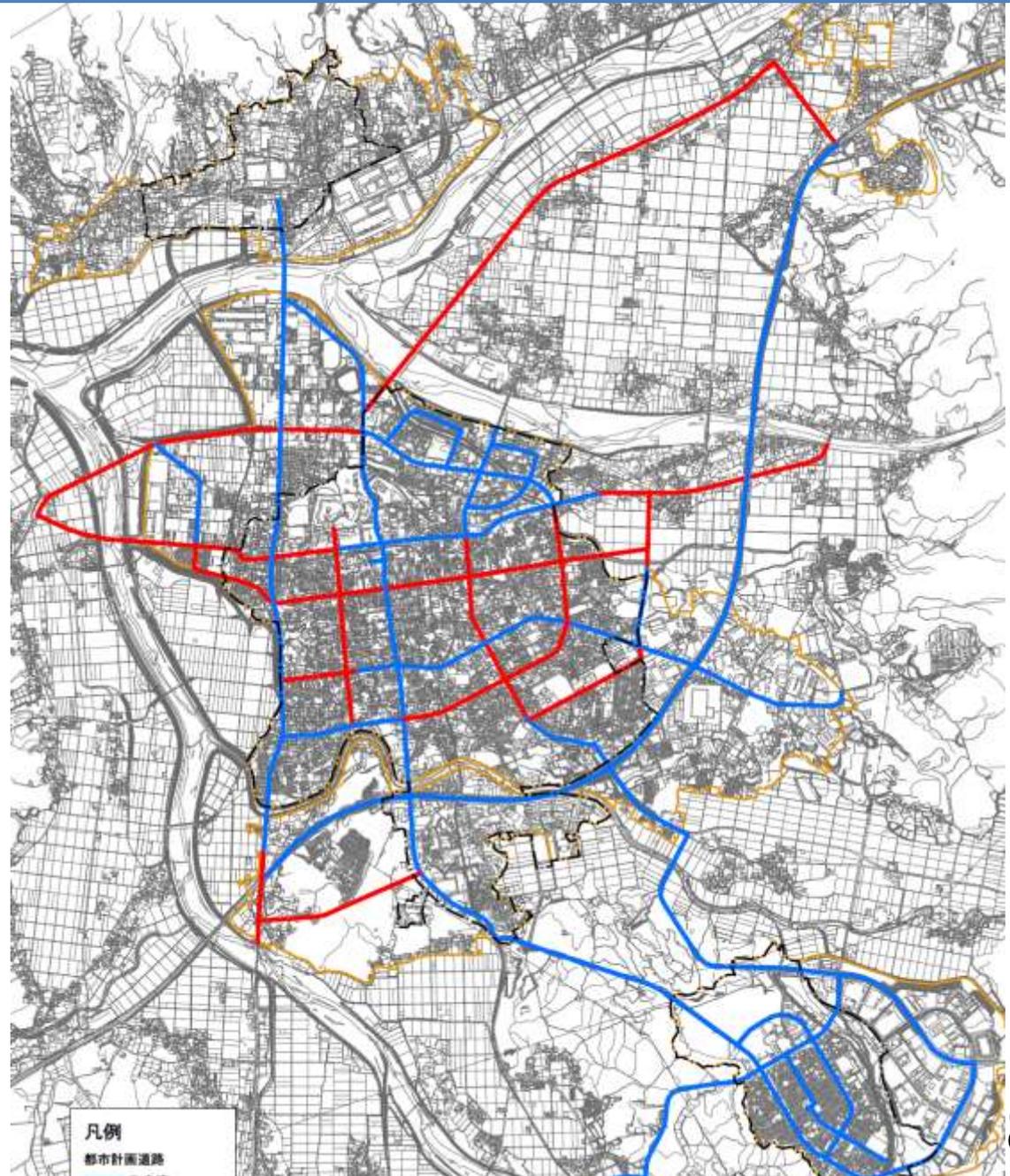
都市計画道路

 改良済

 計画(未整備)

 用途地域界

 居住誘導区域界



凡例  
都市計画道路

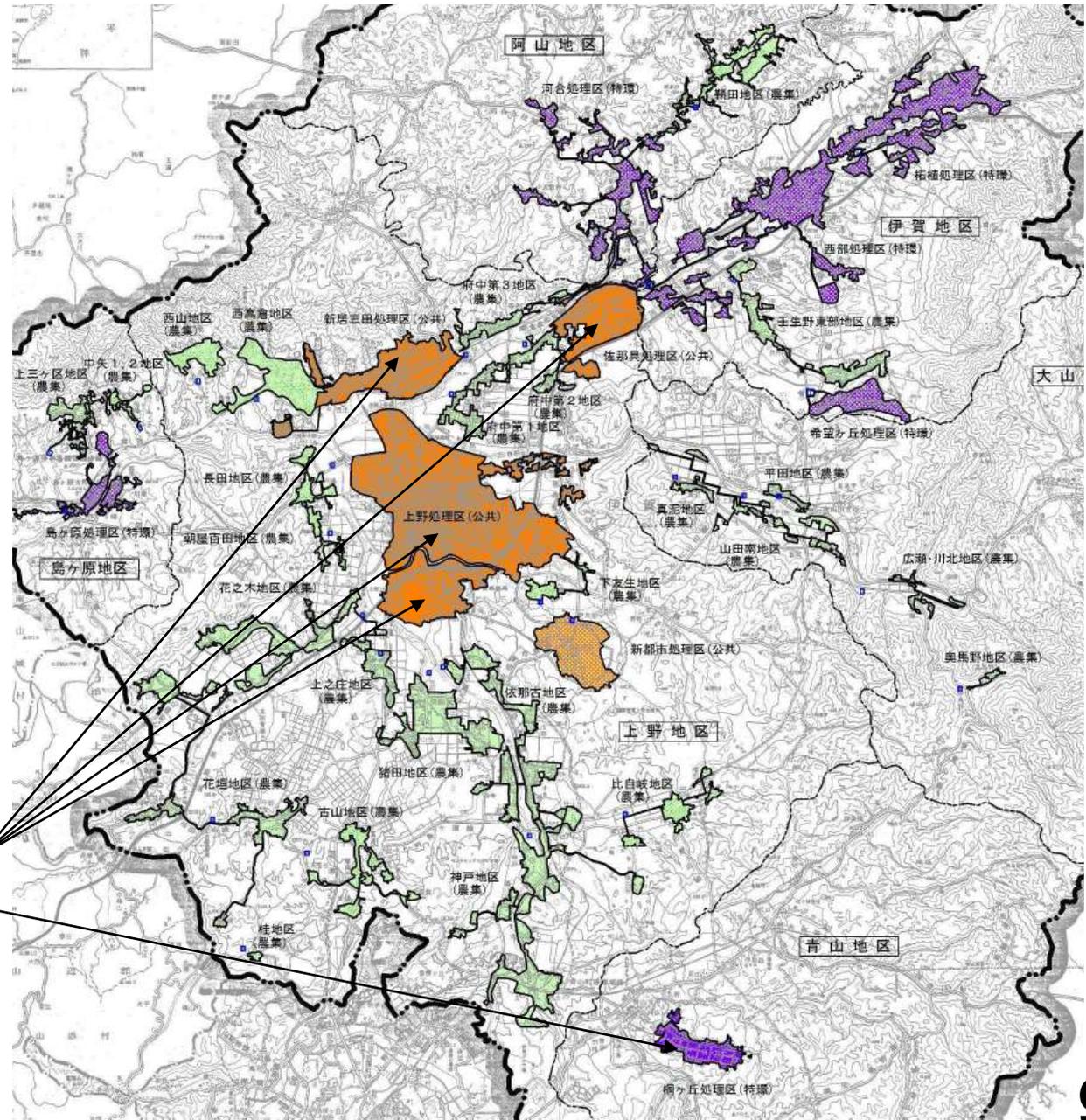


## ○市街地における公共下水道整備の遅れ

汚水処理人口普及率は、農業集落排水の整備の進行により11.4%上昇したが、市街地における公共下水道整備が遅れている。

【汚水処理人口普及率：  
67.0%(平成21年度末)  
→78.4%(平成29年度末)】

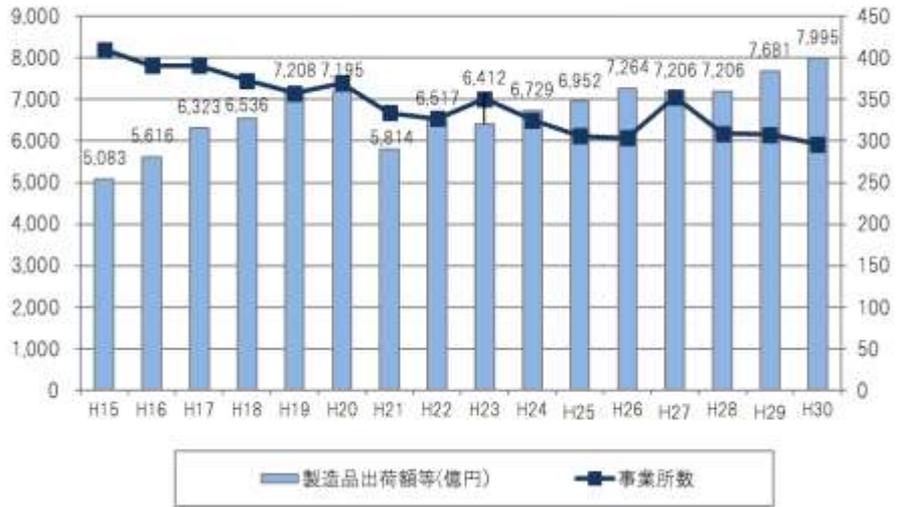
凡 例	
	行政区界
	地区界
	公共下水道 (整備済)
	特定環境保全公共下水道 (整備済)
	農業集落排水 (整備済)
	公共下水道 (未整備・計画)
	特定環境保全公共下水道 (未整備・計画)
	農業集落排水 (未整備・計画)
	処理施設





○地域に生活するためには、魅力的な「しごと」の確保が必要  
製造業以外は右肩下がりの状態である。地域に生活するためには「しごと」の確保が必要である。

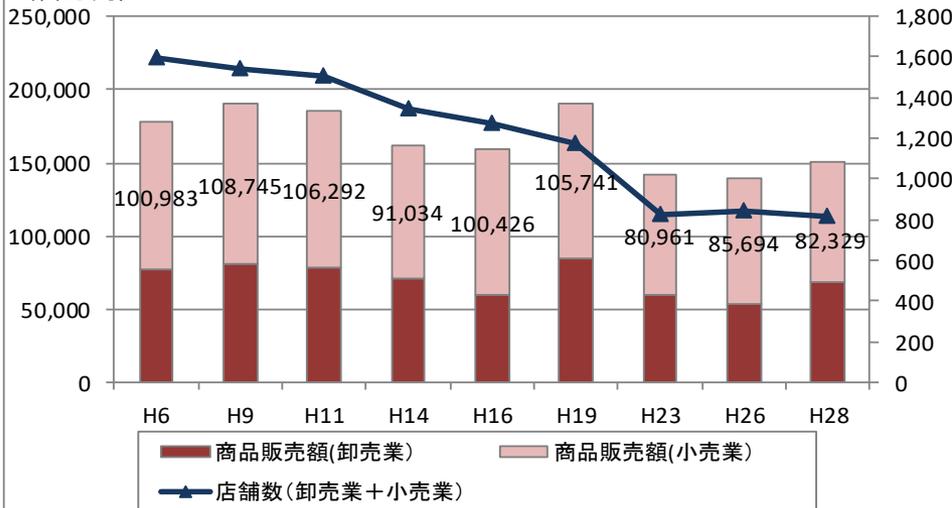
製造業の推移 (億円) (件)



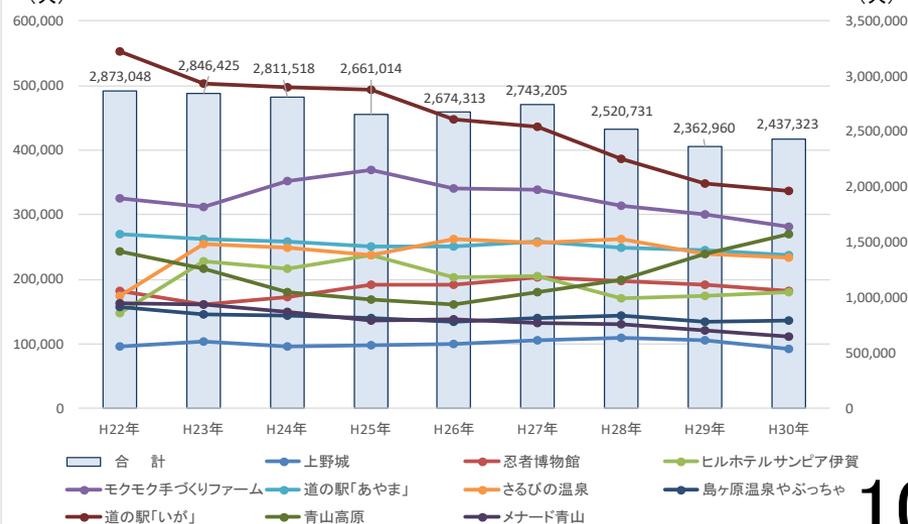
農業産出額の推移 (千万円)



商業の推移 (百万円)



施設別観光客入込数 (人)

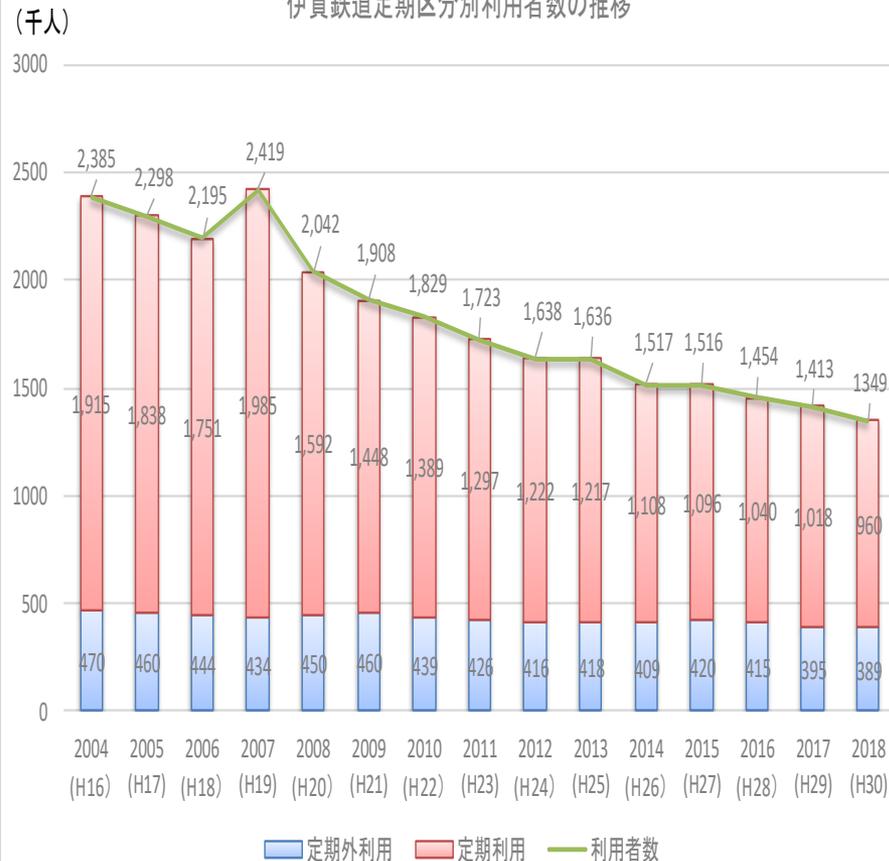


## ○将来都市構造を踏まえた公共交通システムの見直し

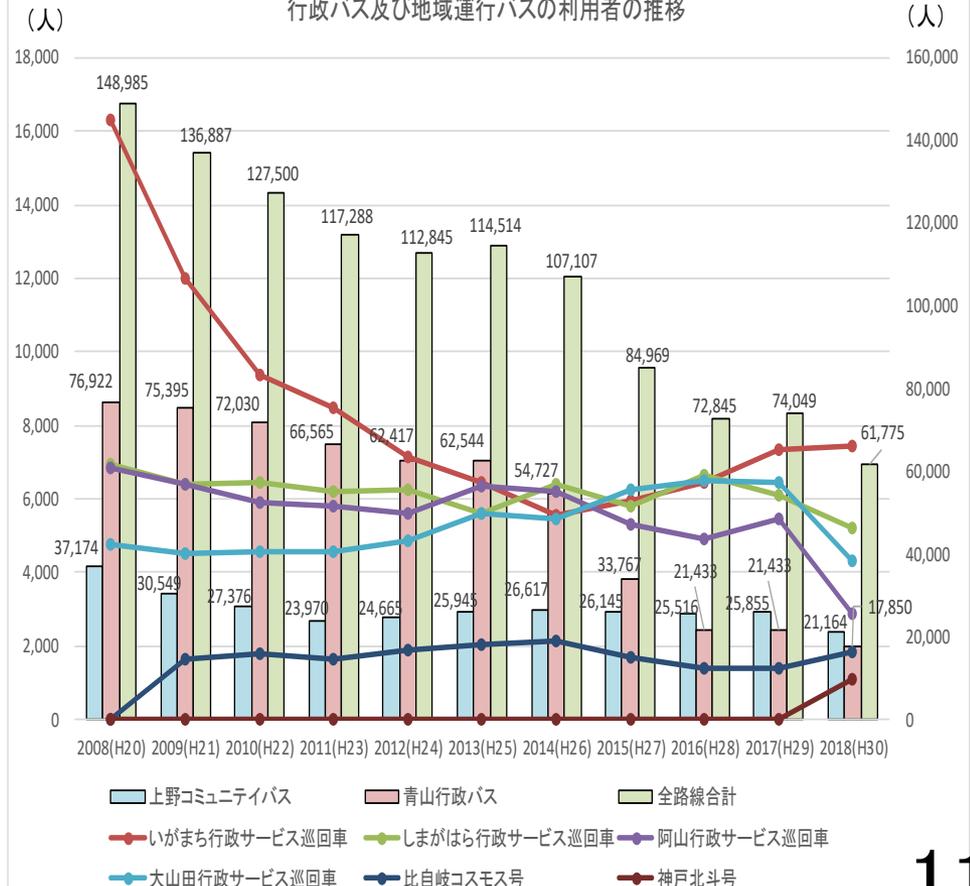
伊賀市の現状は既に超高齢社会であるが、伊賀鉄道、行政バス等の利用客は大幅に減少し続けている。移動手段のない人への最低限の公共サービスといえども、伊賀市の将来像を見据えた抜本的な見直しが必要である。

※青山行政バスは、2015年の運賃改正により激変(一律200円)

伊賀鉄道定期区分別利用者数の推移



行政バス及び地域運行バスの利用者の推移





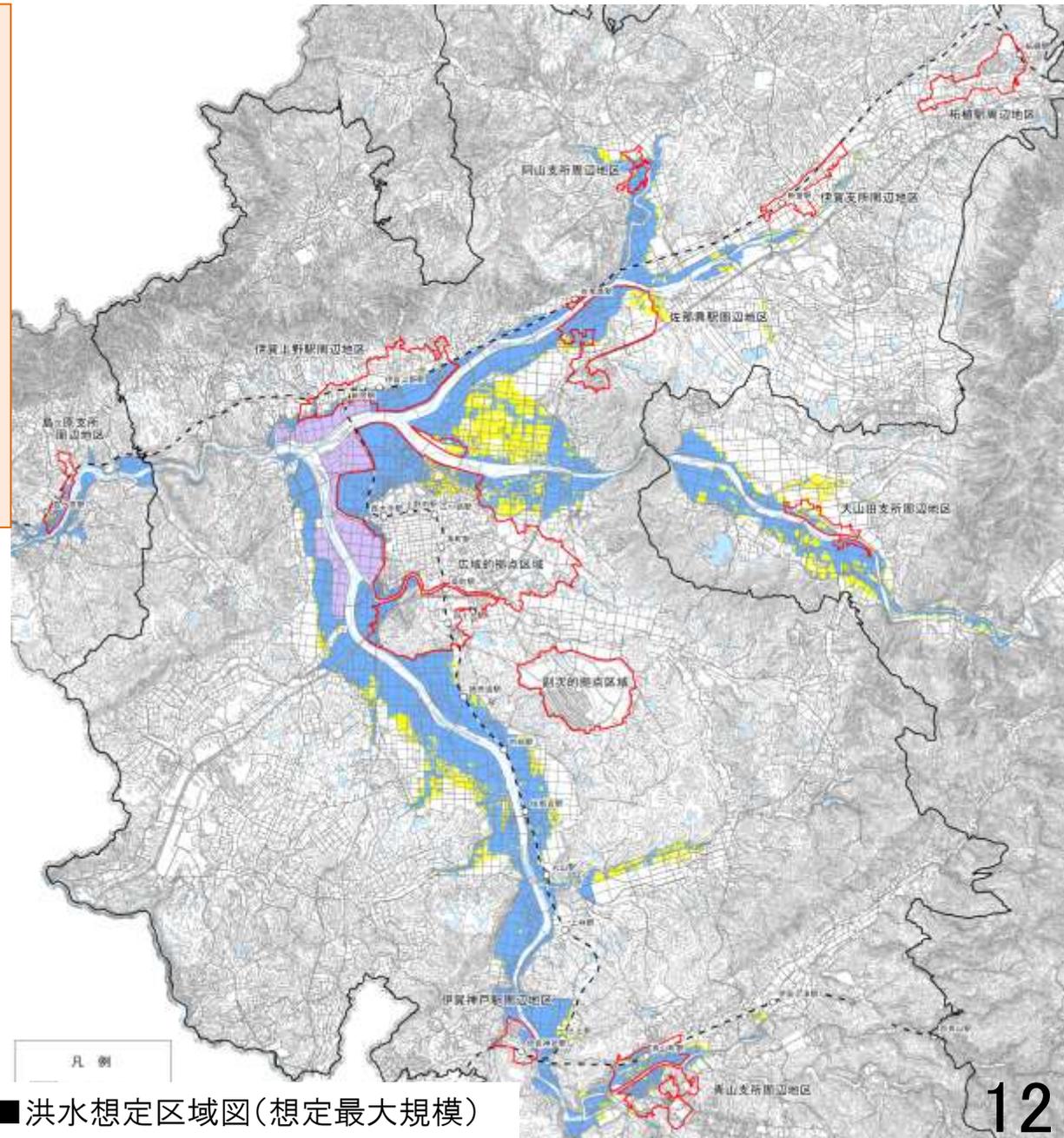
## ○ 災害に対する都市の安全性の確保

想定最大規模の降雨に対応した浸水想定区域を示した図によれば、上野居住誘導区域の一部が0.5m～3.0m未満の浸水想定区域となる

また、現行都市マスタープランで地域拠点と位置付けた地域(阿山、大山田、島ヶ原、青山)についても0.5m以上の浸水想定区域が存在し、対応が求められる。

### 凡 例

-  行政区域
-  都市計画区域
-  各拠点
-  駅
-  鉄道
-  遊水地
- 浸水想定区域**
-  0.5m未満
-  0.5m以上



## ○都市の顔である中心市街地の衰退

### ▼ 中心市街地エリアの人口減少

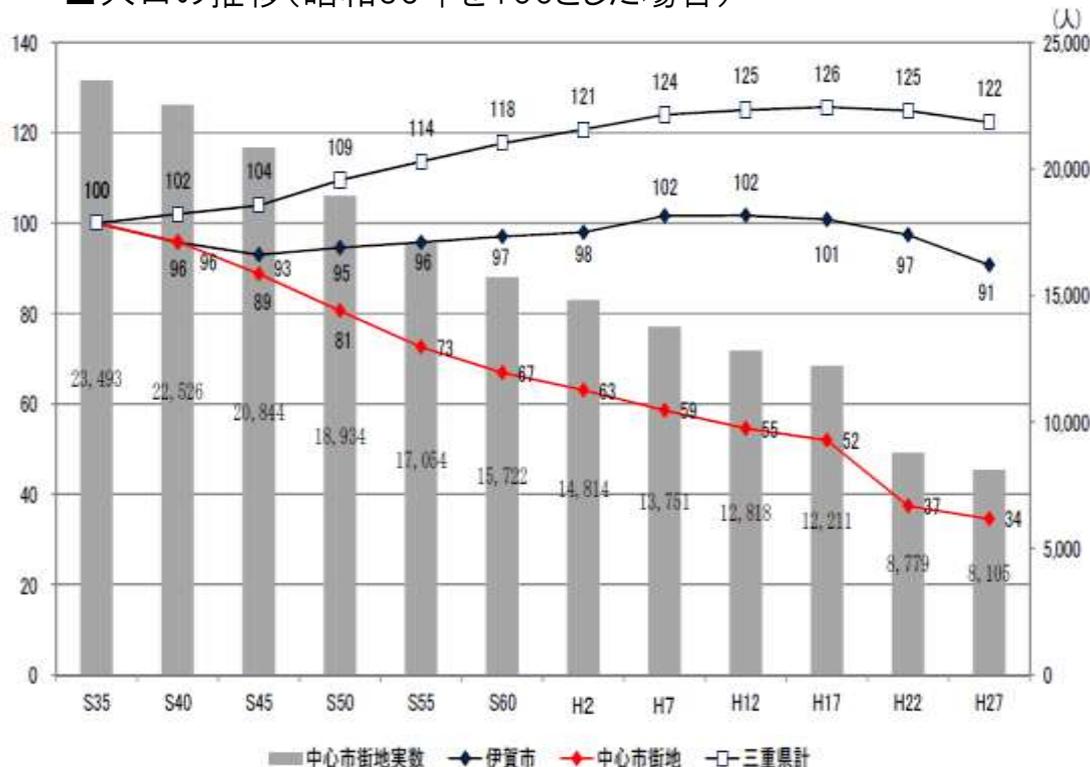
(2005(平成17)年から2015(平成27)年までの10年間で4,106人の減少)

### ▲ 中心市街地エリアの空き家率高水準

(2018(平成30)年度には、空き家率は市平均に比較して3.8ポイント高い)

(住宅の空き家数は325件と、10.2%を占めている)

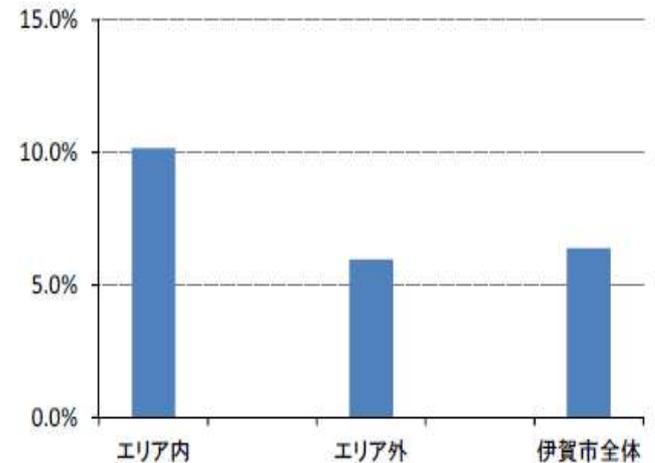
### ■ 人口の推移(昭和35年を100とした場合)



(出典:各年国勢調査)

### ■ 中心市街地エリア内の空き家率(平成30年度)

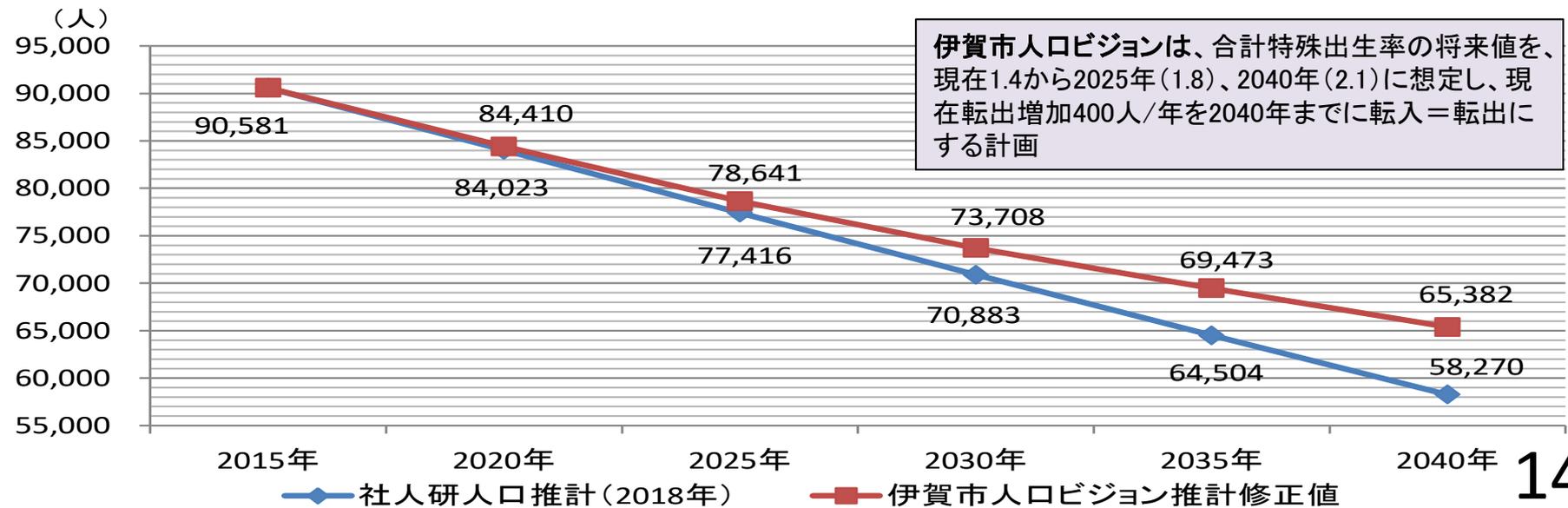
地区	住宅数(件)	空家数(件)	空家率(%)
中心市街地エリア内	3,199	325	10.2%
中心市街地エリア外	29,781	1,777	6.0%
伊賀市全体	32,980	2,102	6.4%



(出典:第2期中心市街地基本計画)

課題1：伊賀市の人口持続性からみれば、人口減少・高齢化より少子化の改善が重要  
 ・現状趨勢をベースに将来推計した人口問題研究所推計では、2040年人口は58,270人、15歳未満人口5,493人で、2015年に比較して人口で32,311人減少、15歳未満人口で5,270人減少である。  
 ・伊賀市人口ビジョンでは、出生率の向上、転出減少・転入増加施策で少子化改善が計画されている。

人口問題研究所 (2018年3月推計)	伊賀市	2015年		2020年	2025年	2030年		2035年	2040年	
		人口	比率			人口	比率		人口	比率
	0~14歳	10,763	11.9%	9,525	8,227	7,168	10.1%	6,239	5,493	9.4%
	15~64歳	51,141	56.5%	45,221	40,620	36,296	51.2%	32,236	27,523	47.2%
	65歳以上	28,677	31.7%	29,277	28,569	27,419	38.7%	26,029	25,254	43.3%
	伊賀市計	90,581	100.0%	84,023	77,416	70,883	100.0%	64,504	58,270	100.0%
伊賀市人口ビジョン (2015年ベース変更後)	伊賀市	2015年		2020年	2025年	2030年		2035年	2040年	
		人口	比率			人口	比率		人口	比率
	0~14歳	10,763	11.9%	9,750	9,004	8,702	11.8%	8,511	8,387	12.8%
	15~64歳	51,141	56.5%	45,383	41,311	37,815	51.3%	35,059	31,886	48.8%
	65歳以上	28,677	31.7%	29,276	28,327	27,191	36.9%	25,903	25,108	38.4%
	人口計	90,581	100.0%	84,410	78,641	73,708	100.0%	69,473	65,382	100.0%





## 課題2:生活サービス施設に与える影響

- ・生活サービス施設のうち小売店は、2040年には売場面積が約35,000㎡減少する想定される。これは、2014年の売場面積に対して28%の減少である。
- ・医療施設は、病院、歯科数はほぼ同じで、一般診療所数が21箇所減少が想定される。これは、2015年の施設数に対して28%の減少である。

### ■商業(小売店)

	事業者数	従業員数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)	年間商品販売額/売場面積 (円/㎡)	平成27年国勢調査人口 (人)	年間商品販売額/人口 (円/人)	売場面積/人口 (㎡/人)	2040年			差			
									推計人口 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)	推計人口 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)	
三重県計	12,997	88,534	1,749,478	2,487,294	703,366	1,815,827	963,461	1.37							
三重県市部計	11,341	79,076	1,583,296	2,227,150	710,907	1,589,784	995,919	1.40							
伊賀市	688	4,356	85,694	124,877	686,227	90,377	948,184	1.38	65,382	61,994	90,341	-24,995	-23,700	-34,536	
※伊賀市の年間商品販売額/人口、売場面積/人口は将来も変化しない前提で推計						※平成26年商業統計調査									

### ■医療施設

項目	2015年				2040年推計			
	人口	病院数	一般診療所数	歯科数	推計人口	病院数	一般診療所数	歯科数
伊賀市	90,581	4	75	32	65,382	4	54	33
名張市	78,795	2	64	36				
全国	10万人当り	6.7	79.5	54.1				
三重県	10万人当り	5.6	84.3	46.8				

※推計値は、全国、三重県の平均値の原単位採用

資料:平成27年医療施設調査(厚生労働省)



### 課題3: 小学校児童数に与える影響

小学校児童数については、2015年国勢調査における対象児童4,435人に対して人口問題研究所ベースで推計した場合、2040年には2,274人と約51%に半減すると想定される。

その結果、現在21校ある小学校は、児童規模で考えると11校程度への再編検討が必要となる。

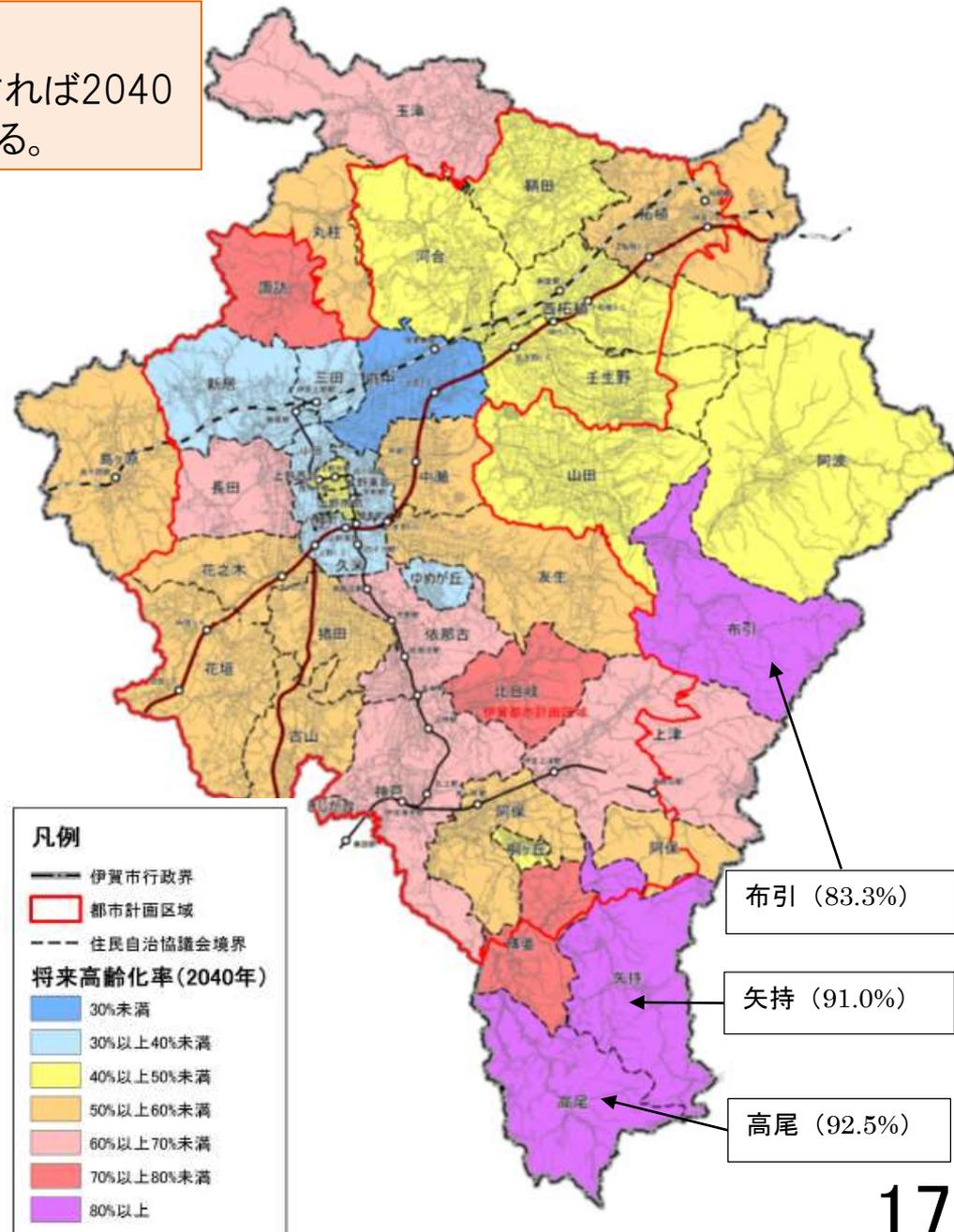
小学校名	2015年	2030年	2040年			参考 2016年 5月1日
上野東小	440	288	207			512
上野西小	683	444	334			736
久米小	184	165	162			193
長田小	47	35	22	200	上野北部小	51
新居小	157	134	103			148
三訪小	92	68	46			79
島ヶ原小	84	48	28			70
府中小	221	266	308	329	上野東部小	202
中瀬小	87	39	21			102
友生小	646	450	380			628
依那古小	104	50	25	108	上野南部小	104
神戸小	127	32	18			54
成和東小	101	62	46			96
成和西小	84	38	19			95
柘植小	119	58	36			117
西柘植小	97	57	38	191	伊賀小	101
壬生野小	190	142	118			191
玉滝小	54	21	11	140	阿山小	59
阿山小	269	180	129			252
大山田小	229	142	81			217
青山小	421	233	142			394
計	4435	2953	2274			4401



## 課題4: 地域自治に与える影響

住民自治協議会別人口は、現状のまま推移すれば2040年に22地域で65歳以上人口比率が50%を超える。

自治協名	人口問題研究所 推計値(人口)	65歳以上人口 比率	75歳以上人口 比率
	2040年	2040年	2040年
上野東部	8,869	38.3	21.3
上野西部	1,147	49.1	29.9
上野南部	1,629	42.7	28.4
小田	1,669	38.5	20.7
久米	3,243	37.2	25.5
八幡町	341	62.8	37.2
花之木	477	50.1	33.1
長田	618	60.0	44.5
新居	2,117	38.5	22.8
三田	1,425	33.1	15.2
諏訪	146	71.2	50.7
府中	4,650	23.9	12.2
中瀬	1,212	59.8	35.1
友生	1,287	54.5	35.7
猪田	898	51.6	37.6
依那古	892	61.0	43.7
比自岐	174	74.1	44.3
神戸	1,181	66.3	44.9
古山	332	56.0	41.9
花垣	476	57.6	42.9
ゆめが丘	6,912	35.6	25.4
柘植	1,495	53.8	36.7
西柘植	2,317	42.3	20.8
壬生野	2,296	46.6	31.0
島ヶ原	1,219	51.5	33.4
河合	2,204	46.7	30.9
鞆田	717	47.4	29.7
玉滝	584	63.4	45.9
丸柱	346	51.2	32.4
山田	2,001	48.1	30.5
布引	144	83.3	46.5
阿波	586	49.7	31.1
阿保	893	51.1	31.1
上津	355	66.2	45.1
博要	134	73.9	44.0
高尾	80	92.5	71.3
矢持	323	91.0	85.8
桐ヶ丘	2,874	42.3	26.5





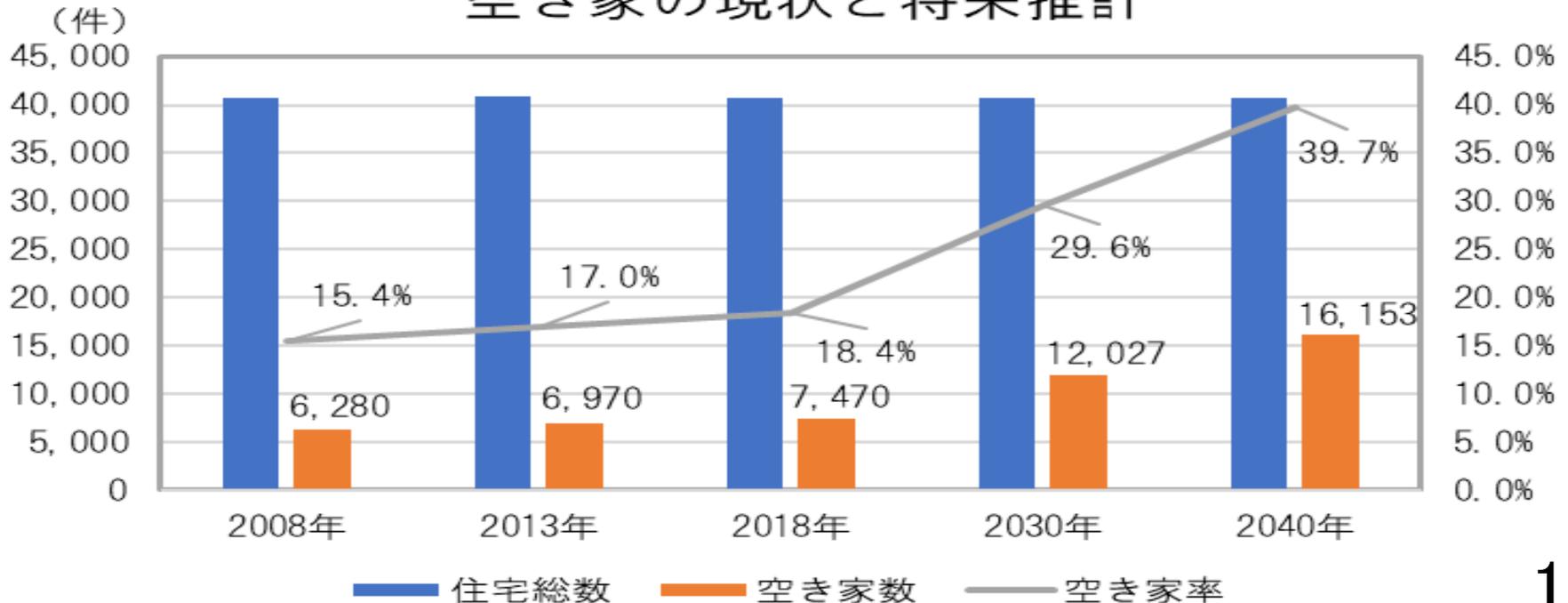
## 課題5:住宅に与える影響

伊賀市の世帯数は現状において減少傾向で、今後も減少が想定され2040年には、24,527世帯と2015年より9,124世帯減少すると推計されます。

この世帯数の減少が空き家となると想定すると、2040年の空き家率は約40%となる。

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
人口	90,581	84,023	77,416	70,883	64,504	58,270
世帯数	33,651	32,260	30,488	28,653	26,662	24,527
平均世帯数	2.69	2.60	2.54	2.47	2.42	2.38

## 空き家の現状と将来推計



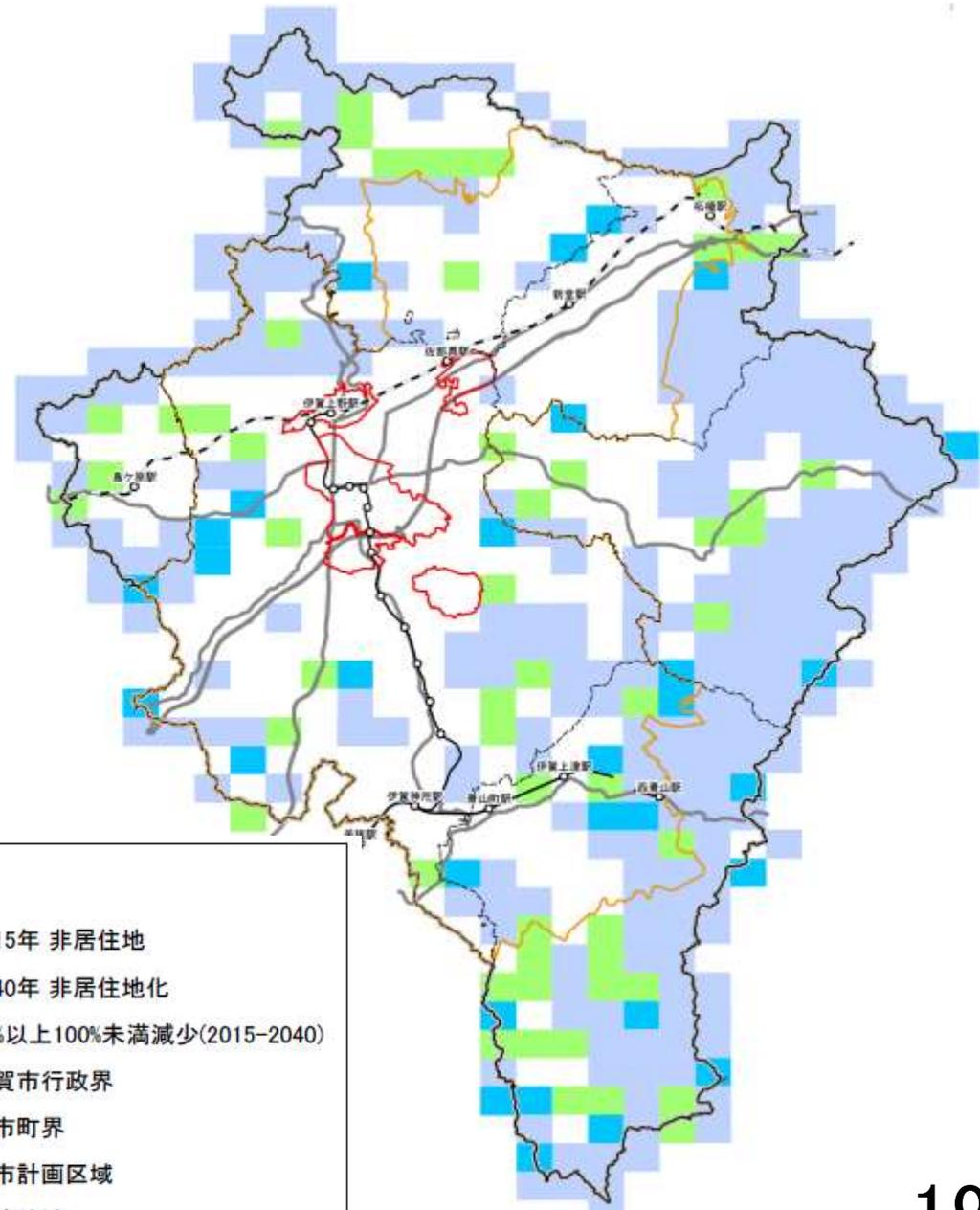


## 課題6: 非居住地化地区の増加

現状趨勢で人口減少が推移すると、伊賀市では2040年には、右図のブルーの1kmメッシュ内が非居住地化すると推計される。

それまでの過程では、高齢化率の増加により地区コミュニティを維持することも難しい地区の発生が予測される。

特に、青山地区の都市計画区域外では非居住地区及び人口が50%以上減少するメッシュが多く存在する。



### 凡例

- 2015年 非居住地
- 2040年 非居住地化
- 50%以上100%未満減少(2015-2040)
- 伊賀市行政界
- 旧市町界
- 都市計画区域
- 用途地域

■ 2040年までに非居住地化する1kmメッシュ



課題	2040年の想定	都市づくりの問題
1. 人口減少・少子・高齢化の進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の推計では、人口は58,270人と約64%に減少</li> <li>・15歳未満人口は5,270人と約51%に減少</li> </ul>	伊賀市の将来を考えれば、人口減少や高齢化は表面的現象で、本質的問題は、少子化により伊賀市の次の担い手の減少であり、その改善対策こそが重要
2. 生活サービス施設に与える影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小売店の売場面積が約35,000㎡減少(約28%減少)</li> <li>・一般診療所は、21箇所減少(約28%減少)</li> </ul>	生活のための都市機能と考え、市場に完全に任せるのではなく、適切な誘導が重要
3. 小学校児童数に与える影響	児童数は2,274人(約51%)	現在21校ある小学校は、児童規模で考えると11校程度への再編検討が必要
4. 地域自治に与える影響	22地域で65歳以上人口比率が50%(現在は2地域【高尾・矢持】)	コミュニティの維持が難しくなることより、地域の再編・日常生活維持の取組の向上等の対応が必要
5. 住宅に与える影響	現在の住宅数に対して、空き家率は約40%	空き家の活用や防災の視点より適切な取り壊しによる安全対策が必要
6. 非居住地化地区の増加	青山地区の都市計画区域外では非居住地区及び人口が50%以上減少するメッシュが多く存在	非居住地となるまでの過程の中で、集団移住も含めた対策が必要



## 課題7:伊賀市への転入を増やし、転出を減らす対策が重要

通勤通学の移動状況を見ると伊賀市は、流入超過都市で超過人数4,000以上である。しかし、転入・転出は外国人を除くと852人の転出超過です。

### ■伊賀市の通勤・通学状況

項目	総数	三重県内			他県				
		名張市	津市	その他	大阪府	愛知県	奈良県	京都府	滋賀県
流入	15,693	7,826	831	866	530	82	1,659	615	770
流出	11,596	3,362	971	948	1,353	170	966	289	1,034
差引	4,097	4,464	(140)	(82)	(823)	(88)	693	326	(264)

出典：2010（平成22）年国勢調査

項目	総数	三重県内			他県				
		名張市	津市	その他	大阪府	愛知県	奈良県	京都府	滋賀県
流入	13,736	7,801	816	994	485	133	1,730	636	925
流出	8,972	3,275	952	977	1,129	157	909	290	1,009
差引	4,764	4,526	(136)	17	(644)	(24)	821	346	(84)

出典：2015（平成27）年国勢調査

### ■伊賀市の転入・転出状況（H17年～H22年）

項目	三重県内			他県					外国人を除く計
	名張市	津市	四日市市	大阪府	愛知県	奈良県	京都府	滋賀県	
転入	932	327	169	925	622	574	331	320	6,877
転出	1,301	544	195	1,049	647	414	359	335	7,203
差引	(369)	(217)	(26)	(124)	(25)	160	(28)	(15)	(326)

出典：2010（平成22）年国勢調査

### ■伊賀市の転入・転出状況（H22年～H27年）

項目	三重県内			他県					外国人を除く計
	名張市	津市	四日市市	大阪府	愛知県	奈良県	京都府	滋賀県	
転入	797	348	153	848	522	457	251	343	6,340
転出	1,255	466	175	922	695	515	337	381	7,192
差引	(458)	(118)	(22)	(74)	(173)	(58)	(86)	(38)	(852)

出典：2015（平成27）年国勢調査



## (1)調査目的

まちづくりの現状に対する満足度等の評価や今後充実すべき都市機能、重点的に行うべき施策など、「まちづくり」に関する意見を伺い、長期的なまちづくりの基本指針となる都市マスタープラン改定のための基礎資料とするものである。

(2)調査対象：市内在住18歳以上の市民2,500人

(3)調査期間：令和2年8月3日～8月21日

(4)調査方法：郵送調査

(5)回答状況：回答者数930人(回答率37.2%)

(6)集計方法：設問が複数回答の場合は、回答項目を全票数で割って比率を計算している。

※統計上は、384のサンプル数で95%の信頼度5%の誤差となり、伊賀市全体サンプル数はこの基準を満たしている。地域別は、精度を下げ90%の信頼度10%の誤差(統計上の許容範囲)とすると66～68のサンプル数となり、大山田と島ヶ原以外はこの基準を満たしている。

大山田は53票であるが、90%の信頼度、誤差11.2%とある程度の信頼度は確保されている。島ヶ原については26票で、90%の信頼度、誤差16%となり信頼度が落ちるが、市民意向を判断するデータのため、都市マスタープランの策定上は問題ない。

地域名	配布数	回収数	回収率	回収比率
上野地域	1,566	558	35.6%	60.0%
伊賀地域	269	104	38.7%	11.2%
島ヶ原地域	62	26	41.9%	2.8%
阿山地域	191	68	35.6%	7.3%
大山田地域	142	53	37.3%	5.7%
青山地域	270	109	40.4%	11.7%
無回答	-	12	-	1.3%
総計	2,500	930	37.2%	100.0%



地域名	強み(満足度高)	弱み(満足度低)	施策の重要度
伊賀市全体	⑪居住環境(騒音・振動・臭気等) ⑫生活排水による水質汚濁の状況 ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ	④病院、診療所の利用のしやすさ ①食品等日常の買い物のしやすさ ⑳地震や火災に対する安全性
上野地域	①食品等日常の買い物のしやすさ ⑥国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ ⑫生活排水による水質汚濁の状況	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ⑰身近な生活道路や歩道の安全性	①食品等日常の買い物のしやすさ ④病院、診療所の利用のしやすさ ㉒交通事故に対する安全性
伊賀地域	⑫生活排水による水質汚濁の状況 ⑥国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ	④病院、診療所の利用のしやすさ ①食品等日常の買い物のしやすさ ⑪居住環境(以下略)
阿山地域	⑪居住環境(騒音・振動・臭気等) ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境 ⑮街路樹やまちの緑の豊かさ	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ②通勤・通学のしやすさ	⑲風水害・地すべり等の対する安全性 ④病院、診療所の利用のしやすさ ③公共交通(バス・鉄道等)の利便性

※・赤字表示が、伊賀市全体との相違項目  
 ・表示の順番は、強み、弱み、重要度の順位を示している。



地域名	強み(満足度高)	弱み(満足度低)	施策の重要度
島ヶ原地域	⑪居住環境(騒音・振動・臭気等) ⑫生活排水による水質汚濁の状況 ⑮街路樹やまちの緑の豊かさ	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ⑬スポーツのできる大きな公園の利用のしやすさ ⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ	④病院、診療所の利用のしやすさ ⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ ⑱風水害・地すべり等の対する安全性
大山田地域	⑫生活排水による水質汚濁の状況 ⑪居住環境(騒音・振動・臭気等) ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ②通勤・通学のしやすさ ④病院、診療所の利用のしやすさ	④病院、診療所の利用のしやすさ ③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ②通勤・通学のしやすさ
青山地域	⑪居住環境(騒音・振動・臭気等) ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境 ⑫生活排水による水質汚濁の状況	③公共交通(バス・鉄道等)の利便性 ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ④病院、診療所の利用のしやすさ	①食品等日常の買い物のしやすさ ④病院、診療所の利用のしやすさ ⑲犯罪に対する安全性

※・赤字表示が、伊賀市全体との相違項目  
 ・表示の順番は、強み、弱み、重要度の順位を示している。



地域名	地域拠点の重要施策	日常生活(地域拠点率)	伊賀市全体の重要施策※2
伊賀市全体	②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(51.4%) ④医療・保健機能の維持・充実(50.6%) ③利便施設(買い物、飲食店)の維持・充実(42.5%)	・内科(20.4%) ・外科(8.4%) ・小児科(3.2%) ・食料品(13.9%) ・実用衣料品(2.3%) ・会食(2.6%) ・金融機関(23.4%)	①地震や風水害等の災害に強いまちづくり75.6%) ②既存道路網の改善や身近な生活道路の整備(61.9%) ⑥日常生活拠点として地域拠点の維持・拡充(60.6%)
上野地域 ※1		・内科(58.4%) ・外科(52.0%) ・小児科(41.2%) ・食料品(58.0%) ・実用衣料品(47.8%) ・会食(45.6%) ・金融機関(67.5%)	①地震や風水害(74.5%) ②既存道路網(61.2%) ⑤中心市街地の活性化(60.8%)
伊賀地域	②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(47.1%) ③利便施設(買い物、飲食店)の維持・充実(44.2%) ④医療・保健機能の維持・充実(41.5%)	・内科(49.0%) ・外科(18.3%) ・小児科(8.7%) ・食料品(43.3%) ・実用衣料品(4.8%) ・会食(5.8%) ・金融機関(61.5%)	①地震や風水害(74.0%) ⑥地域拠点(62.5%) ②既存道路網(57.7%)
阿山地域	④医療・保健機能の維持・充実(61.5%) ②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(50.0%) ⑥支所機能(行政相談、行政手続き等)の維持・充実(44.1%)	・内科(52.9%) ・外科(16.2%) ・小児科(5.9%) ・食料品(23.5%) ・実用衣料品(2.9%) ・会食(2.9%) ・金融機関(44.1%)	①地震や風水害(79.4%) ②既存道路網(66.2%) ⑥地域拠点(63.3%)

※1:上野地域の日常生活の率は、広域的拠点内(上野中心区域・上野南部区域)、副次的拠点内の合計値

※2:伊賀市全体の重要施策の率は、「特に重要」と「重要」の合計値



地域名	地域拠点の重要施策	日常生活(地域拠点率)	伊賀市全体の重要施策※2
島ヶ原地域	②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(76.9%) ④医療・保健機能の維持・充実(50.0%) ⑥支所機能(行政相談、行政手続き等)の維持・充実(50.0%)	・内科(61.5%) ・外科(11.5%) ・小児科(15.4%) ・食料品(0.0%) ・実用衣料品(3.8%) ・会食(0.0%) ・金融機関(46.2%)	⑪地震や風水害(84.7%) ⑥地域拠点(80.7%) ②既存道路網(80.7%)
大山田地域	④医療・保健機能の維持・充実(54.7%) ⑥支所機能(行政相談、行政手続き等)の維持・充実(50.9%) ②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(49.1%)	・内科(20.8%) ・外科(1.9%) ・小児科(3.8%) ・食料品(34.0%) ・実用衣料品(5.7%) ・会食(3.7%) ・金融機関(47.2%)	⑪地震や風水害(88.7%) ⑥地域拠点(79.2%) ②既存道路網(71.7%)
青山地域	②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(51.4%) ④医療・保健機能の維持・充実(50.5%) ③利便施設(買い物、飲食店)の維持・充実(47.7%)	・内科(45.0%) ・外科(28.4%) ・小児科(6.4%) ・食料品(29.4%) ・実用衣料品(0.9%) ・会食(2.8%) ・金融機関(59.6%)	⑪地震や風水害(74.3%) ②既存道路網(60.6%) ④公共下水道の整備(58.7%)

※2:伊賀市全体の重要施策の率は、「特に重要」と「重要」の合計値

■ 市民アンケートの結果概要

- ① 地域生活環境の評価(満足度)では、「公共交通(バス・鉄道等)の利便性」と「子どもの遊びや身近な公園」への不満が大きい。
- ② 地域生活環境の評価(重要度)では、「安全性」ともに「食品等日常の買い物のしやすさ」「病院、診療所の利用のしやすさ」が高い。
- ③ 今後対策が必要な重要項目は、「公共交通(バス・鉄道等)の利便性」、「病院、診療所の利用のしやすさ」、「身近な生活道路や歩道の安全性」、「交通事故に対する安全性」である。
- ④ 上野中心区域には、既存の歴史資産を最大限活用して、にぎわいや「ハレの場」づくりが求められている。
- ⑤ 上野南部区域には、新たな都市拠点づくりではなく、交通ネットワーク(車・歩行者系とも)など都市機能の改善が求められている。
- ⑥ 地域拠点については、現状の機能の維持・充実への要望が強いが、実際の医療、買い物等での地域拠点の利用状況は限定的である。
- ⑦ 今後、伊賀市内において重要な施策は、「地震や風水害等の災害に強いまちづくり整備」、「既存道路網の改善や身近な生活道路の整備」、「地域拠点の維持」である。
- ⑧ 公共交通は、鉄道、基幹バス、地区内循環バスが同じように重要とされているが、出前サービス(買い物、医療、行政相談・手続き等)による公共交通に頼らない利便性確保の施策も求められている。

■ 市民意向からの都市づくりの課題

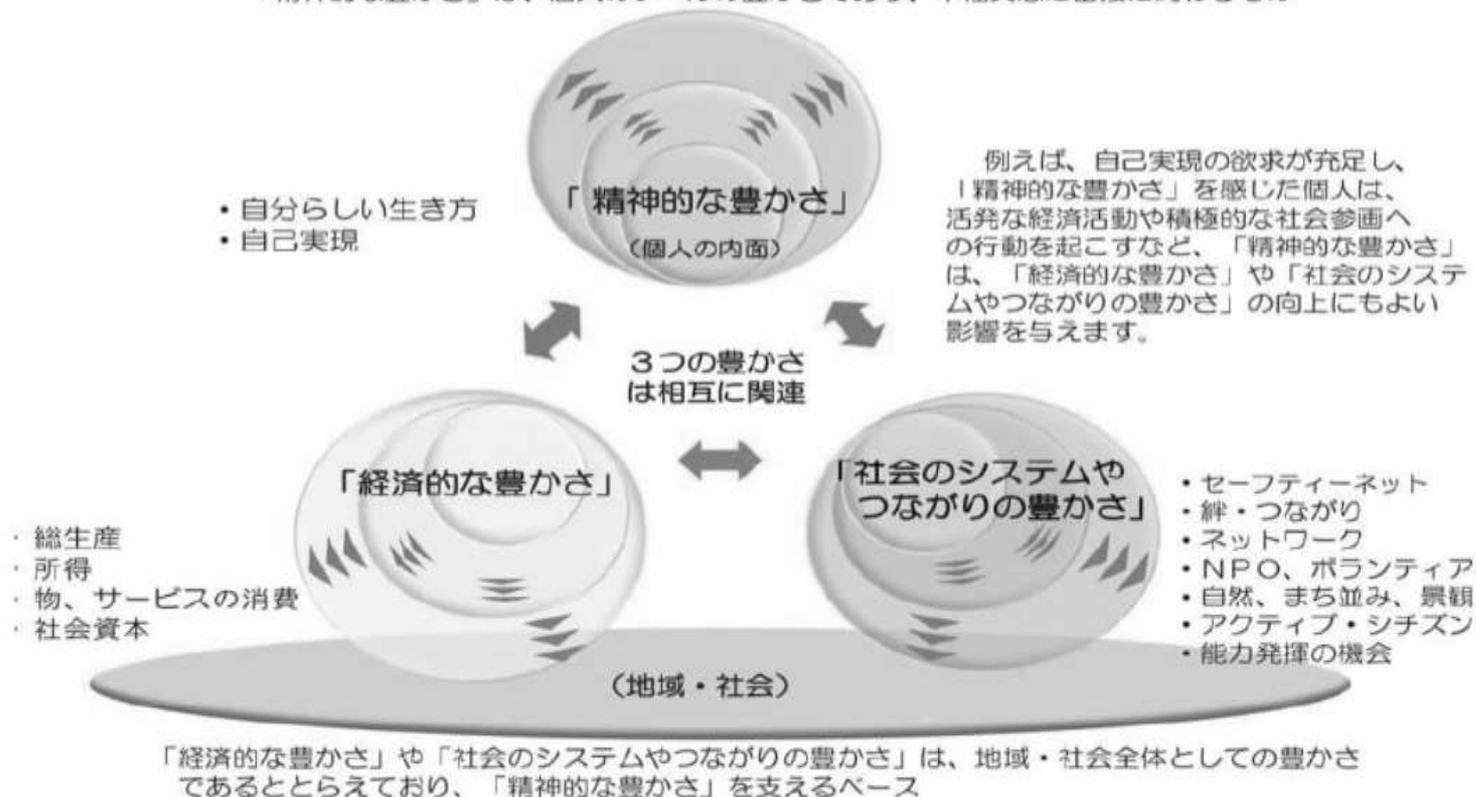
- 公共交通の利便性、買い物、病院・診療所の利用のしやすさなど人口減少の中でも利便性の確保
- 子どもの遊び場や身近な生活道路や歩道の安全性など居住環境の質の改善
- 風水害・地すべり・地震・交通等に対する安全性など安心・安全な都市の構築
- 都市の魅力の向上のためには、「上野中心区域の再生」により、市の玄関にふさわしい中心拠点づくり
- 「公共ネットワーク等の都市機能改善」により行政・医療拠点の利便性・快適性の向上
- 日常生活の利便性確保のため、地域拠点の維持・充実



図 三重県民カビジョン・第二次行動計画の「新しい豊かさ」のイメージ

「新しい豊かさ」は、「経済的な豊かさ」、「社会のシステムやつながりの豊かさ」、「精神的な豊かさ」の3つの豊かさ全てを高めていくことで、享受できる豊かさです。

「精神的な豊かさ」は、個人のレベルの豊かさであり、幸福実感に密接に関わるもの



○「新しい豊かさ」を得られる地域づくりには、「つながりの豊かさ」を高めることが重要

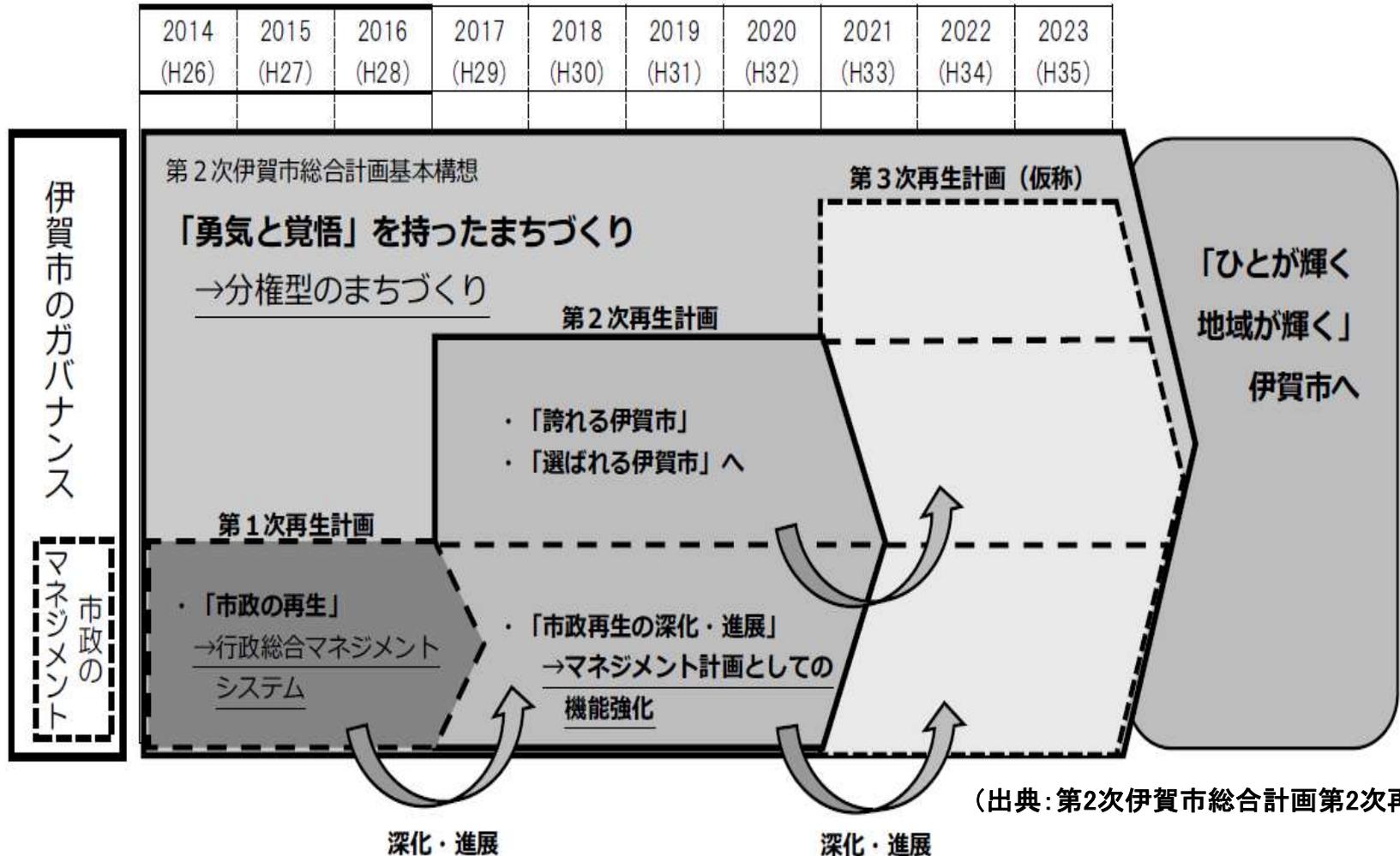
本市では、活発な自治活動、多様な市民活動が繰り広げられています。「新しい豊かさ」を得られる地域をつくるためには、そうした活動を通じて「つながり」を持つことが非常に重要であり、「経済的な豊かさ」「精神的な豊かさ」と相まって、「つながりの豊かさ」を高めていくことが求められます。

(出典:第2次伊賀市総合計画第2次再生計画)



### ■ 求められる視点

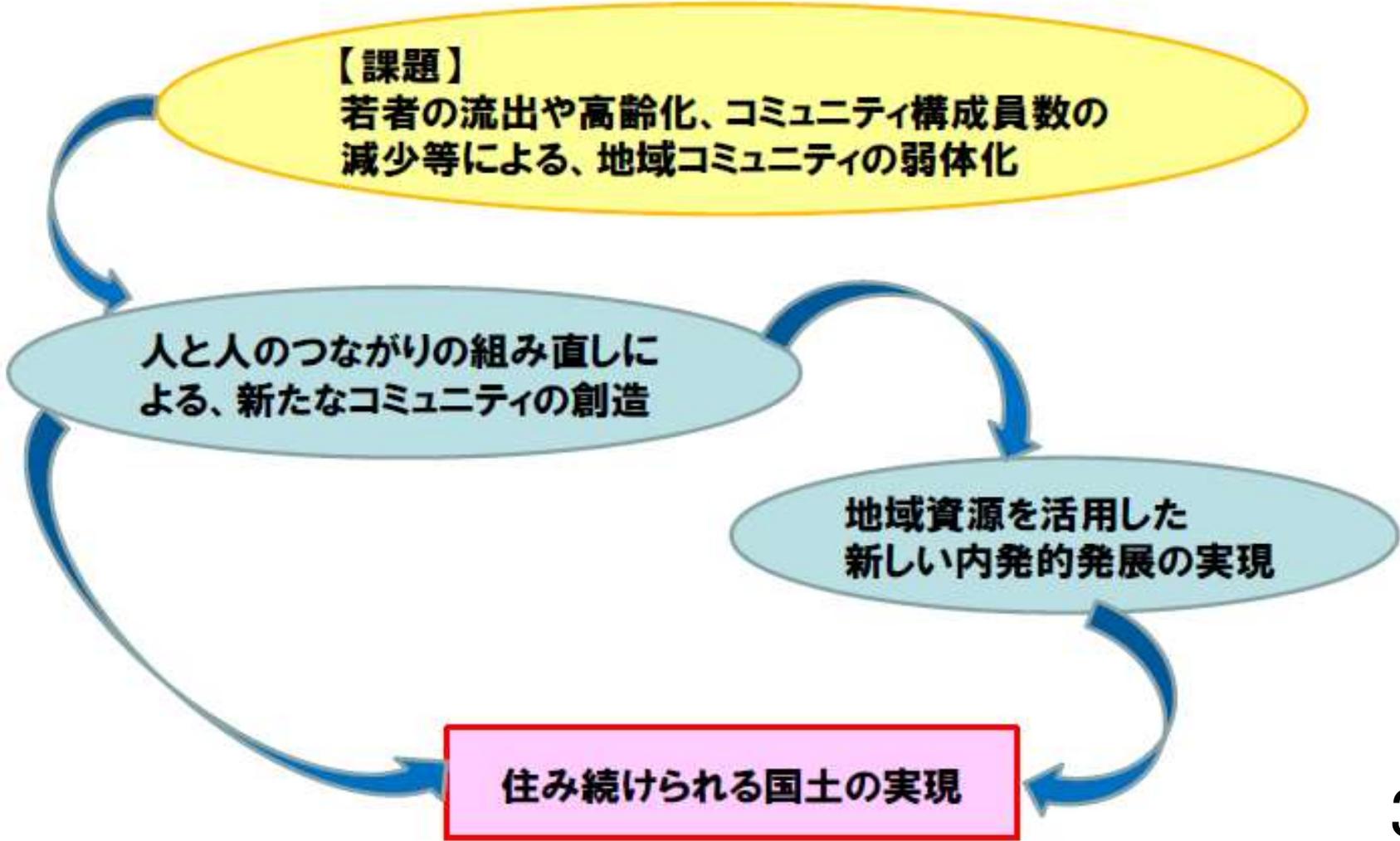
1. 人口減少への対応：人口減少を単に「受け入れる」のではなく、課題を解決して、「歯止めをかける」ための視点
2. 時代の変化への対応：地域の各主体との連携を強化し、地域力をさらに向上させる視点
3. 「伊賀らしさ」の追求：「個性的な文化」・「豊かな自然、それと共生する農林業」・「地域をつくる市民力」を特色、良さ、強みととらえ、これを「伊賀らしさ」として追求する視点





※新たなコミュニティの創造を通じた新しい内発的発展が支える地域づくりについて(2019年国土審議会資料【国土交通省】)

○新たなコミュニティの創造を通じた新しい内発的発展を支える地域づくり  
少子高齢化と人口減少により、地域コミュニティの弱体化するなか、住み続けられる国土実現のためには「人と人のつながりの組み直しによる、新たなコミュニティの創造」と「地域資源を活用した新しい内発的発展の実現」が必要





## ○ 共通の価値観に基づくコミュニティ(新たなコミュニティ)

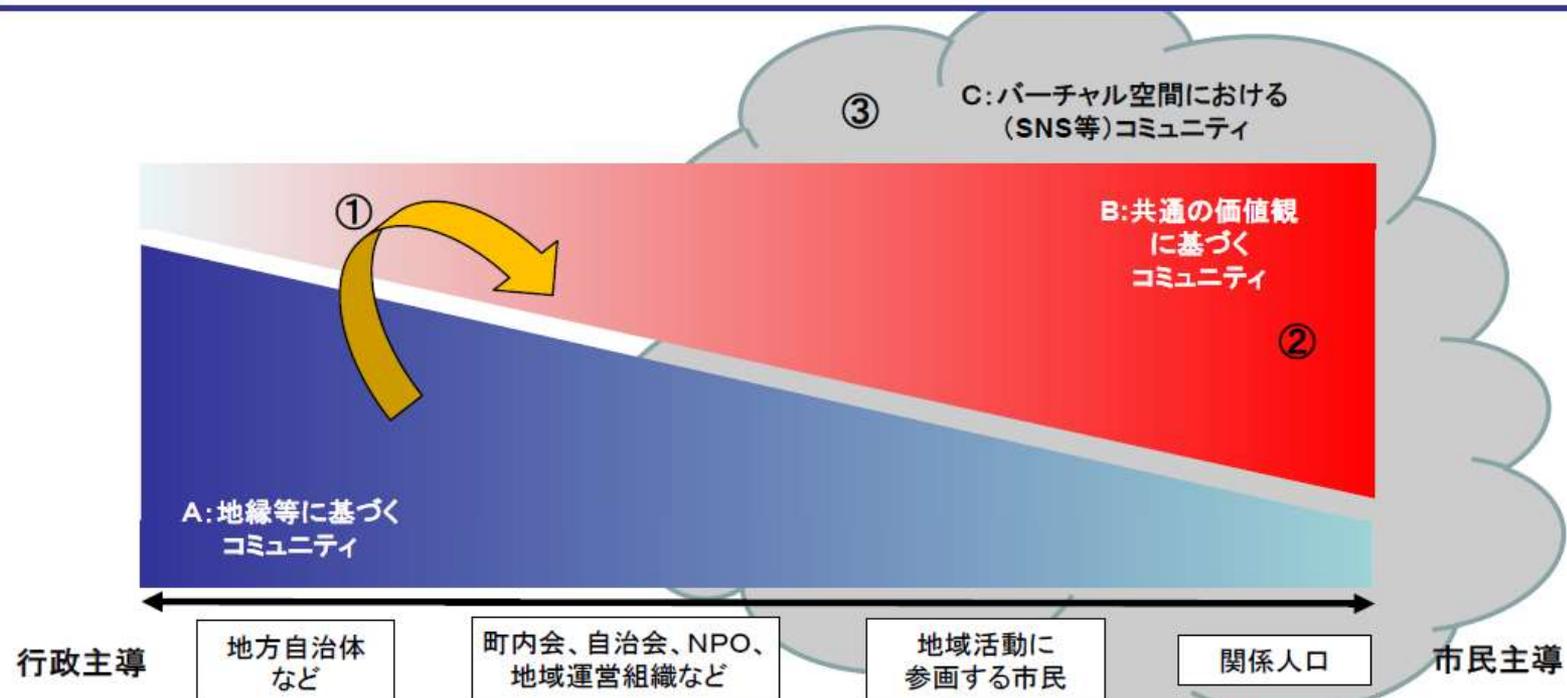
### ○ 近年

①人口減少・高齢化、市町村合併などの変化を受け、従来型の地縁型組織の中にも、活動地域の広域化や活動内容の深化を図る組織が出現。

(A:地縁等に基づくコミュニティ → B:共通の価値観に基づくコミュニティ)

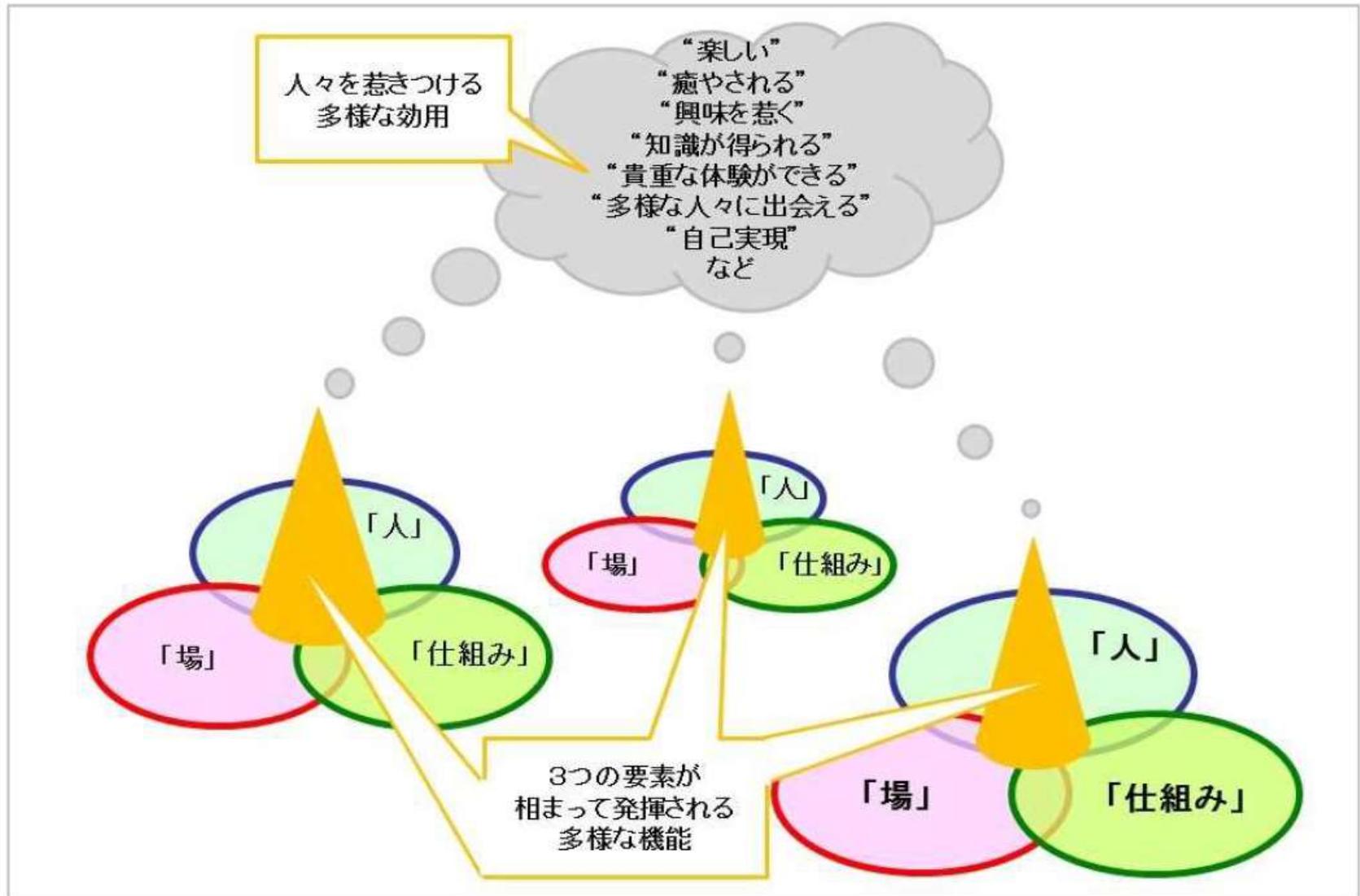
②また、NPOや民間企業等の多様な主体による地域を支える人作り、共助社会を担う組織が新たに出現。(B:共通の価値観に基づくコミュニティ)

③リアル空間である場と連動したSNSなどのバーチャル空間におけるコミュニティが拡がりを見せている。(C:バーチャル空間におけるコミュニティ)



※ 上記、コミュニティの分類は、概念的なものであり、その境界は曖昧であり明確なものではない。

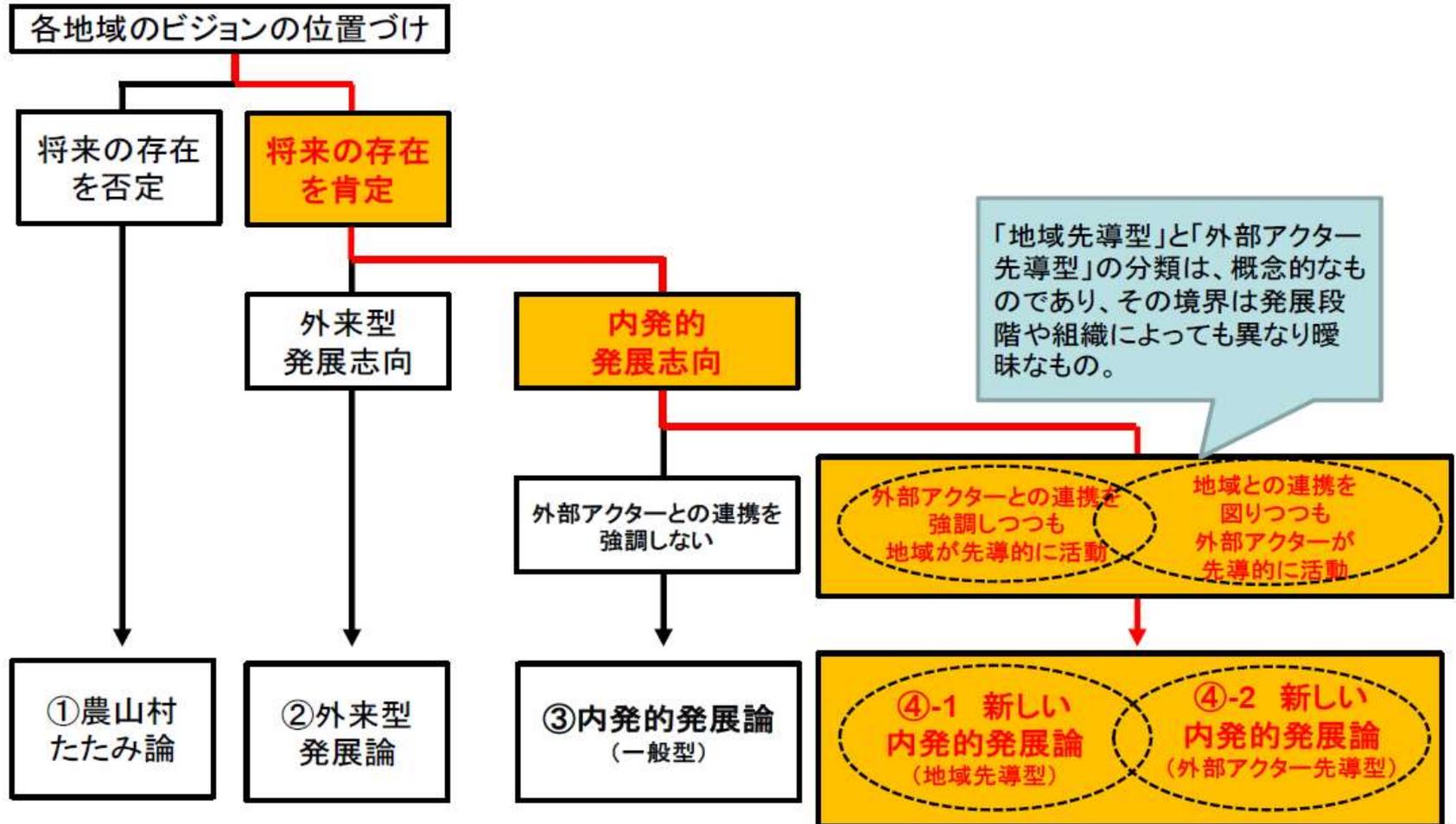
○ 新たなコミュニティの形成に向けた3つの要素(イメージ図)



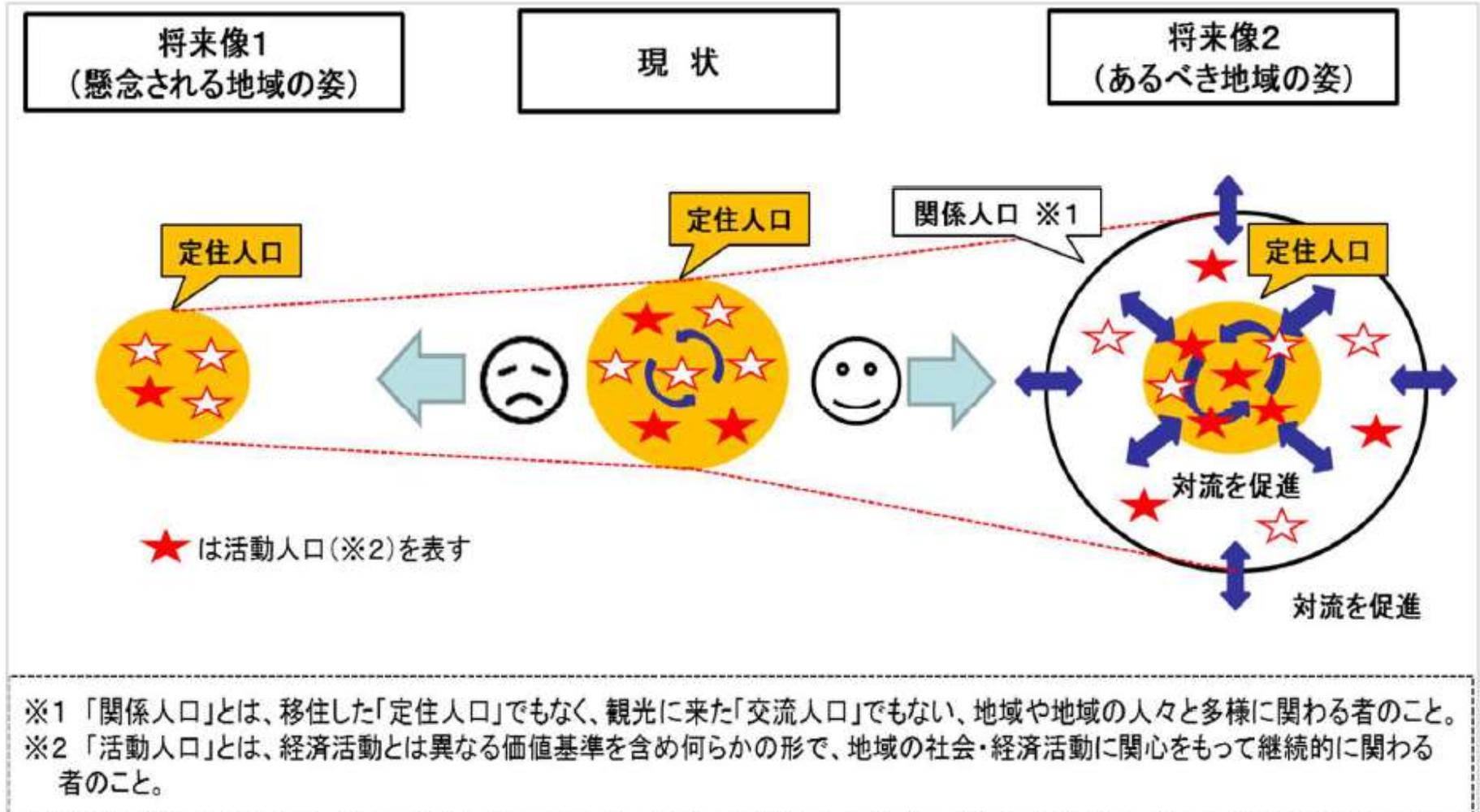


○ 地域資源を活用した新しい内発的発展の実現

- ・ 農山村をたたむ国土づくりではなく、地域の必要性を肯定的に捉えた国土づくり
- ・ 外来型発展志向に加えて、内発的発展志向による産業振興
- ・ 新しい内発的発展論は、外部アクターとの関連性が重要

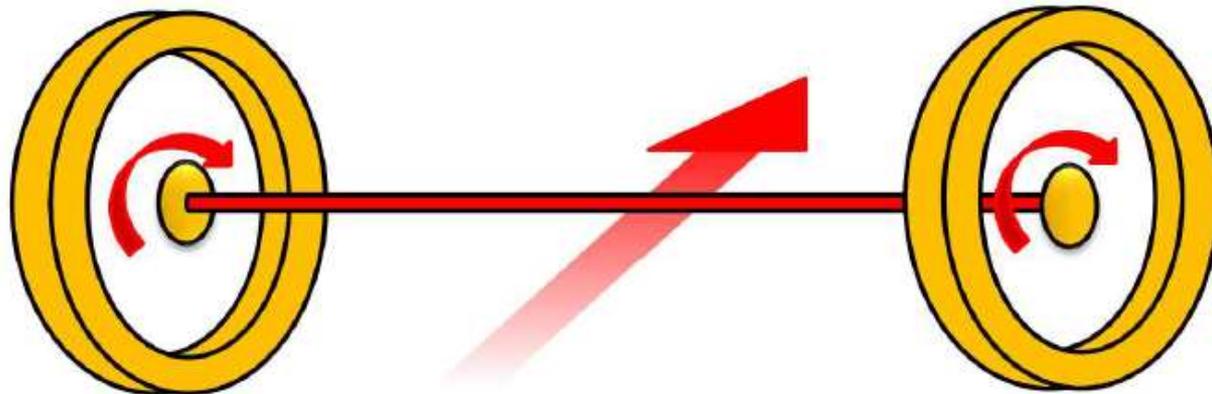


○ 定住人口は減少傾向にあっても、定住人口・関係人口に内在する活動人口を増加させ、地域の活動維持(活動人口比率を高める)することが重要



## ○ 地域のプロセスデザインを支える車の両輪

- ・地域づくりを進めるに当たっては、車の両輪としての「攻め」(価値創造)と「守り」(生活維持・向上)の取組のバランスが重要
- ・地域の内発的発展を推進していくためには、「攻め」(価値創造)の取組からのアプローチ及び「守り」(生活維持・向上)の取組からのアプローチのどちらかに極端に偏るのではなく、地域全体としてのバランスやその積み上げを勘案しながら実施していくことが必要



### 「攻め」の取組(価値創造)

#### 新たな活動、起業・継業などの取組

- ・ エネルギー資源活用(バイオマス、小水力など)
- ・ 特産品づくり・販売(道の駅、農産物の加工)
- ・ 観光(滞在型観光含む)
- ・ サテライトオフィス
- ・ 知的対流拠点(コワーキングスペースなど)

### 「守り」の取組(生活維持・向上)

#### 住民個人の日常生活を維持・向上する取組

- ・ 集落活動(道普請、草刈りなど)
- ・ 生活支援(高齢者の見守りなど)
- ・ 防災活動
- ・ 鳥獣害対策
- ・ その他の活動(冠婚葬祭、行政業務等の共助)

参考:「地域サポート人材による農山村再生(関司直也著)」のほか、高知県「集落活動センター」、「にいがたイナカレッジ」等の活動をもとに国土政策局作成



キーワード：「新しい豊かさ」、「伊賀らしさの追求」、「新しい内発的発展」

### 「住み続けられる国土」の実現に向けて

現状  
問題点

#### 地域

- 地方部の人口減少
- 地域構造が変化し、従来の圏域は融解

地域の“担い手”と“生業”の確保が必要

#### 人

- 長寿命化により、非就労時間が拡大
- マルチステージ型の人生・価値観が変化

新たに活動できるステージが必要

地域の担い手が確保  
人生の満足度が向上

価値でつながる  
新たなコミュニティの創造

関係人口の拡大及び深化  
(活動人口の増加)

「対流」を促進

ヒト・モノ・カネ・情報  
地域がつながる

価値創造  
(攻め)

生活維持・向上  
(守り)

両輪の取組

生業の確保

両輪の取組を  
プロセスデザインに基づき実施

「新しい内発的発展」

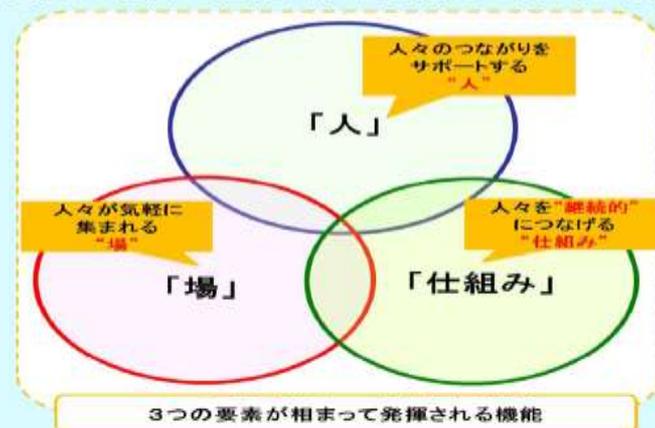
「伊賀らしさの追求」

具体的な取組

「住み続けられる国土」

#### “人”と“人”をつなげる3つの要素

「人」、「場」、「仕組み」の要素を一体的に実施



「新しい豊かさ」～つながりの豊かさ～

#### 施策の方向性

- 「人」：つながりサポーター等の人材育成、地域間の学び合い
- 「場」：つながりを創るための空間・滞在施設の整備、小さな拠点の機能強化
- 「仕組み」：地域との関わりを深化させる取組等つながりサポート機能の強化、シェアリングエコノミー（共有経済）の活用



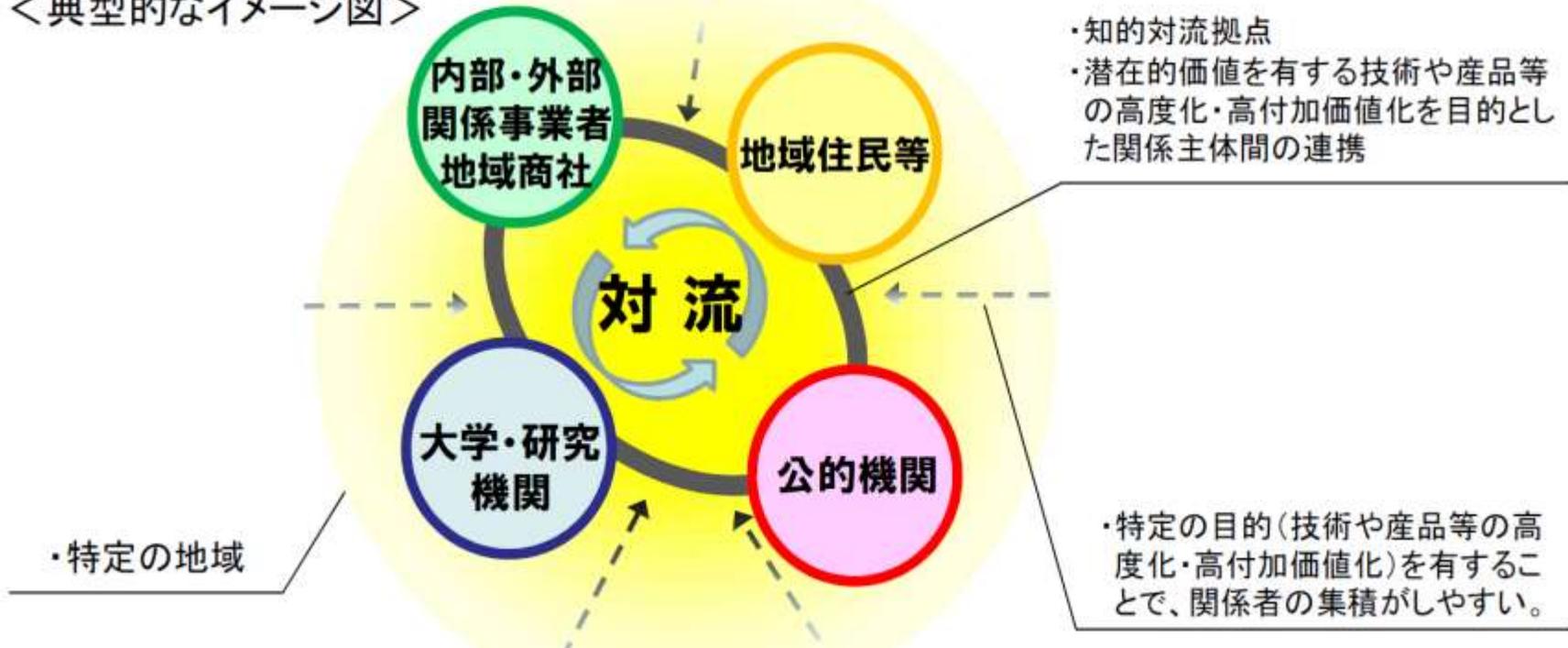
## ○知的対流拠点づくり (※2019国土審議会の「稼げる国土専門委員会2019年とりまとめ報告書」より)

地域発イノベーションを創出するためには、多様な関係主体が連携し、知恵やアイデアを出し合っ、実際の活動を昇華させる「場」が必要となる。

そのような場を「**知的交流拠点**」と稼げる国土専門委員会報告書では呼んでいる。

知的対流拠点づくりとは、①活動主体、②活動主体を繋ぐコーディネート等を行う主体、③活動空間、④活動を支える交通ネットワーク の4つの要素が機能し、下図の典型的なイメージ図に示すように、活動主体が連携し、特定の地域における潜在的価値を有する技術や産品等の高度化・高付加価値化を促すことで、地域資源を活かした新たな活動が継続的に行われる地域づくりである。

### <典型的なイメージ図>





地域の強みとなる資源を活かす「知的対流拠点」づくりのイメージ

凡例 注) いずれも代表的なイメージ

- ①活動主体：
- ②コーディネート等を行う主体：
- ③活動空間(拠点的な施設)：
- ④活動を支える交通ネットワーク：イラストに示す

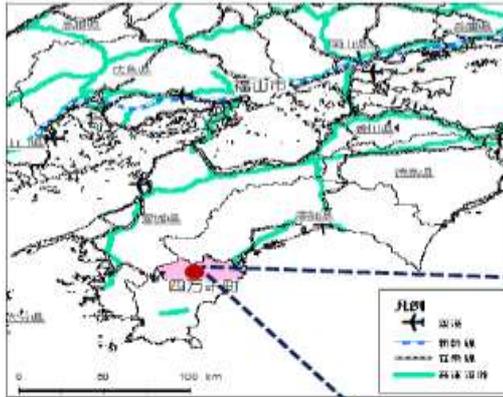


(出典:2019国土審議会の「稼げる国土専門委員会2019年とりまとめ報告書」より)



### 稼げる地域づくり

- (株)四万十ドラマを中心に、地元農家、加工業者、住民、町、域外専門家などが結束。
- 道の駅を拠点に、地域産品と人と技術・知恵を組合せ商品を開発・販売する仕組みを醸成。
- 産地として衰退していた栗など地域のあたりまえが強みであることに再注目。地域産品で売上10億円を目指す。



【道の駅四万十とおわ】生産者の顔が見える直売所、オリジナル商品の販売、地元素材を使った食を提供する食堂。地元農家、住民等が集い、ここで新しい商品が生まれる  
(写真提供：四万十ドラマ)

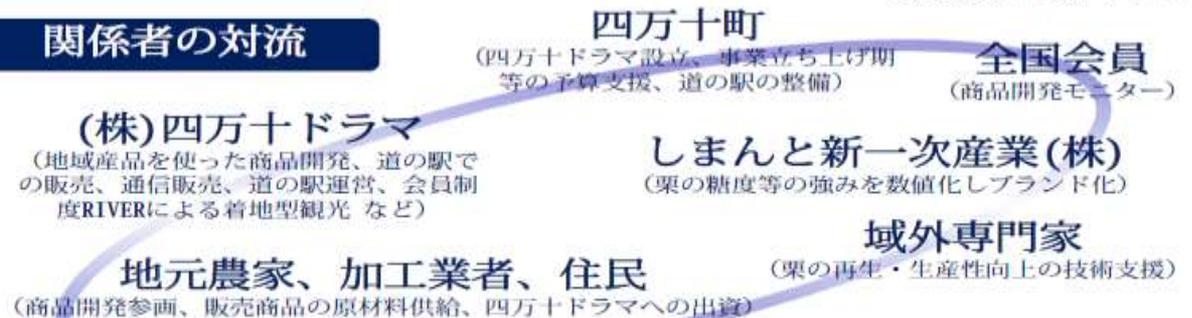


地元ではあたりまえの無農薬野菜や手摘みのお茶が価値ある商品に  
(写真提供：四万十町)



【しまんと地栗】大粒で糖度の高い地元の栗をブランドに  
(写真提供：四万十町)

### 関係者の対流



### コーディネート役

#### (株)四万十ドラマ

(地元農家、地域内外の加工業者等の巻き込み、道の駅や大都市の大手百貨店での販売を通じた地域ブランディング など)



(論点1) 伊賀市における攻めの取組の可能性  
 1. 以下の5つの可能性について、知的対流拠点として発展する可能性  
 2. 5つの可能性以外の知的対流拠点づくりの存在  
 3. 伊賀市で知的対流拠点づくりを進めるために必要な今後の施策や支援策

可能性1: 阿山道の駅を中心にした知的対流拠点づくり

可能性2: 上野城下町地区を中心にした観光系知的対流拠点づくり

可能性3: ゆめテクノ伊賀を中心にした知的対流拠点づくり

可能性4: 農産品の6次産業化をテーマにした知的対流拠点づくり

可能性5: 森林資源の活用をテーマにした知的対流拠点づくり

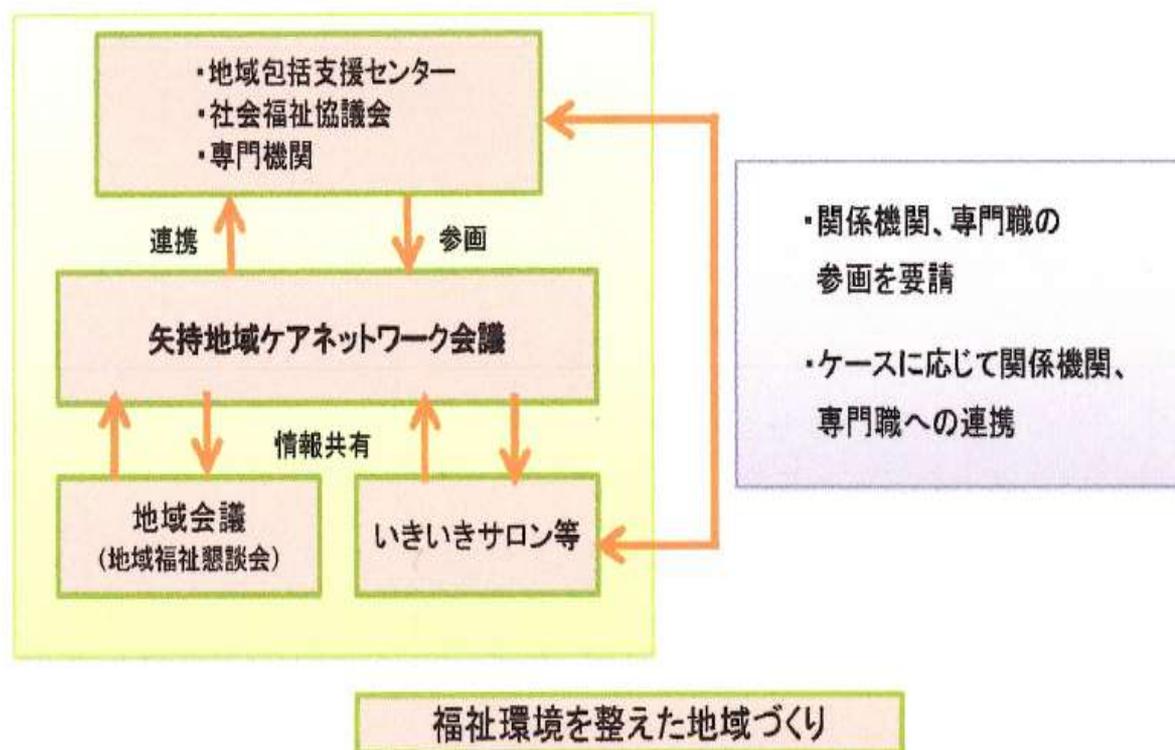




- ・39住民自治協議会すべてで、地域まちづくり計画が策定され、市民センター中心に地域主体のまちづくりが推進中である。
- ・矢持地域まちづくり計画(2018年5月改定)の例では、矢持地域の課題を分析し、地域づくりの基本方針として「誰もが、安全で安心して健康で住み続けられる矢持地域」をめざし、実現のための施策を、行政と共に進める施策「協働」と、住民が中心に進める施策「住民」に分けて具体化している。
- ・そのうちの地域を支える仕組みと次ページの災害への対応の仕組みは以下のとおりである。

### ◎ 地域における支え合い・見守り活動を進めるために

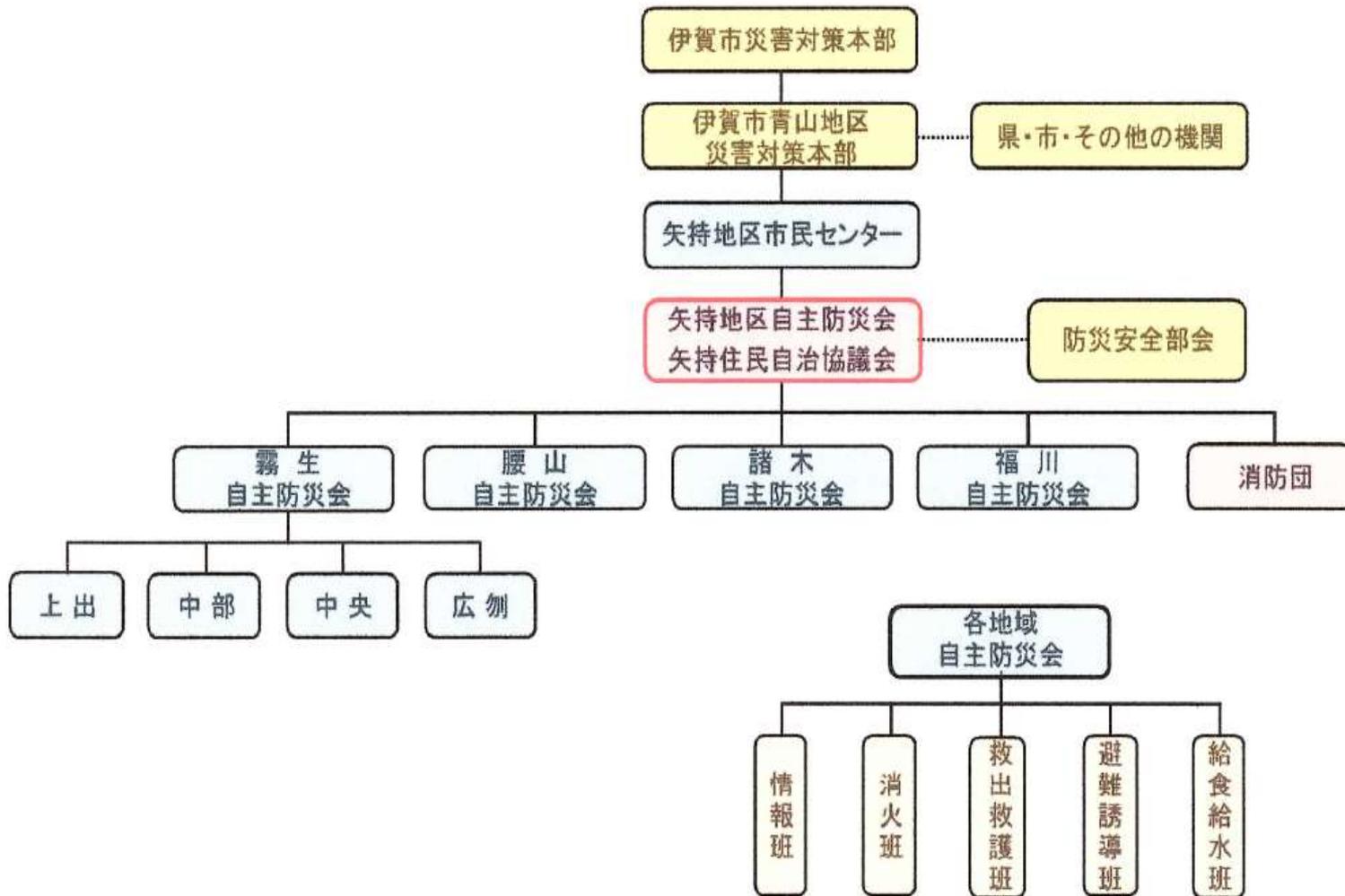
…… 地域会議や矢持地域ケアネットワーク会議を大切にします ……





◎ 災害に強い地域づくりを進めるために

…… 自主防災組織の充実、消防団との連携を図ります ……





あなたちもまちをいきいき!!

★社協は、身近な地域の居場所づくりを支援します★

# ふれあい・いきいきサロン

いきいきサロン・コミュニティカフェ  
241か所 (112,48件)

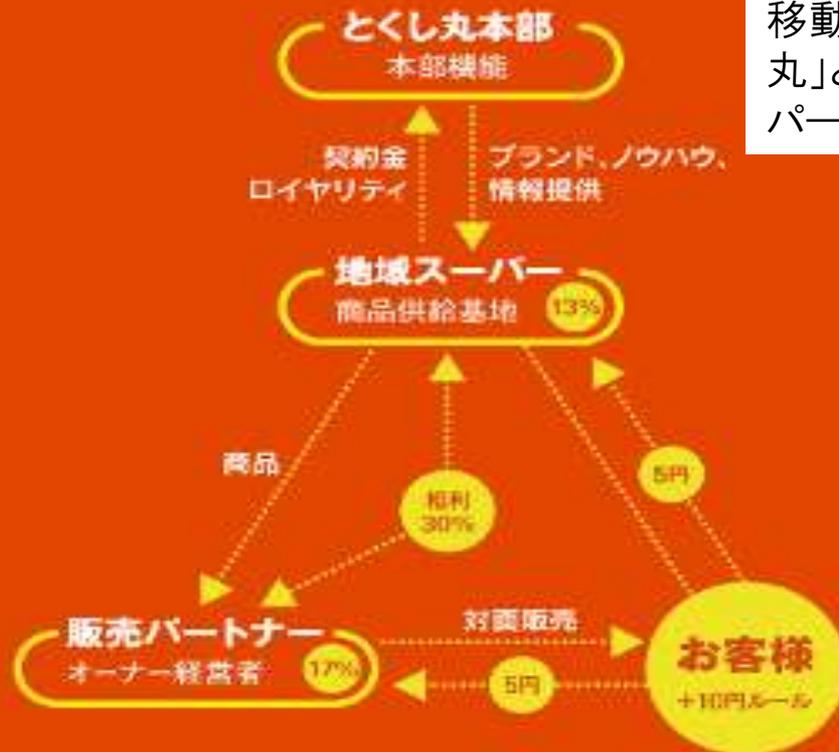
地区	会名称
東部	上野車坂町 中坂いさいきサロン「白百合の会」
東部	上野田端町 上野田端町「手袋」とらごころべりの会
東部	上野田端町 上野田端町民生活動会「この花会」
東部	上野寺町 寺町ふれあいいきいきサロン
東部	上野文善町 文善町読書会
東部	上野水坂町 にこにこ会
東部	北平野 イキイキキ体機教室
東部	城北 榮福会
東部	緑ヶ丘本町 ひまわり会
東部	緑ヶ丘本町 緑本映画会
東部	緑ヶ丘本町 緑本桜メロ歌おろ会
東部	緑ヶ丘南町第2 げんきカフェ
東部	緑ヶ丘南町第2 ぽんわかカフェ
東部	緑ヶ丘南町 みんなの会
東部	緑ヶ丘南町 グリーンサロン
東部	緑ヶ丘 びまわりの会
東部	緑ヶ丘 にんにんサロン
東部	上野新町 いきいきサロン「和・和・和しんまが」
西部	上野東丸之内 リロンさわやか
西部	上野東丸之内 ひだまり会
西部	上野西丸之内 外よし会
西部	上野西丸之内 歌おろひだまり会
西部	上野鉦屋町 いきいきサロン鉦屋町
西部	上野高美須町 ヨロマイカ喜びす
南部	上野幸町 夢の実会
南部	上野東山南町 ドレミ会
南部	上野愛宕町 愛共会
南部	上野愛宕町 あいあい会
南部	上野愛宕町 愛宕健康マーチャングラブ
南部	上野愛宕町 カンケサロン なでしこ
南部	上野鉦屋町 鉄砲町ふれあい会
中部	上野東忍町 イキイキサロン東忍
小田	小田町 小田町ふれあいいきいきサロン「つくしんぼ」
小田	小田町 小田町ふれあい健康康華サロン
小田	小田町 オレンジサロン小田
花之木	大野木 人野木ゆうゆうクラブ
花之木	大野木 大野木ふれあい・いきいきサロン
花之木	大内 大内さわやかサロン
花之木	七本木 七本木いさいきサロン
長田	長田 長田いさいきサロン長田
新居	東高倉 東高倉いさいきサロンゆっくり会
新居	東高倉 東高倉ひとやすみ
新居	東高倉 東高倉「元気の会」
新居	西高倉 西高倉おたのしみ会
新居	西山 西山の澤クラブ
新居	岩倉 岩倉いさいきサロン <くれは>
新居	岩倉 岩倉ONE
三田	三田地区住民自治協議会
三田	三田 コミュニティエーカフェ
三田	大谷 100 えんカフェ「さます」
三田	東三田 100 えんカフェ結いの会
三田	東三田 100 円カフェ
三田	西三田・安福寺 100 えんサロンふれあい
三田	高砂 桔梗会リーグル
山	野間 野間フンコインカフェ・カラオケ
山	諏訪 諏訪社会福祉会 サロン井の会
山	諏訪 しい映画を観る会
府中	諏訪 くれはいきいきサロン
府中	印代 印代つぼみ会
府中	一ノ宮 一ノ宮いきいきサロン
府中	千歳 千歳ふれあいいきいきサロン

地区	会名称
府中	ハイツ芭蕉 ハイツ芭蕉老人クラブ松寿会
府中	佐那真町 佐那真町老人クラブ松寿会
府中	外山 外山いきいきサロン
府中	東条 東条いきいきサロン
府中	西条 西条いきいきサロン
府中	十橋 いきいきサロン十橋
府中	山神 まどか山神サロン
中瀬	西明寺 いきいきサロン西明寺
中瀬	下荒木 下荒木ふれあいいきいきサロン
中瀬	上荒木 上荒木区いきいきサロン
中瀬	寺田 いきいきサロン友楽長
友生	連池 連池いきいきサロン
友生	上友生 上友生いきいき会
友生	生流里 生流里さまたま会
猪田	大東 大東老人クラブほのぼの会
猪田	上野の谷 上野の谷ランドおしゃべり会
猪田	竹部 竹部なかよし会
猪田	山出 山出いきいきサロンあじさい
猪田	上之庄 秋桜会
猪田	上之庄団地 さくら会
依那	依那真 いきいきサロン「ほほえみ会」
依那	市部 お元気クラブ
依那	下部 いきいき体操クラブ
依那	下部南 みなみいきいきサロン
依那	上部 上部ふれあい・いきいきサロン
依那	森寺 森寺いきいきサロン
比目	比目 志いの部会通達委員会
比目	比目岐 ひしきコミュニティカフェ
神戸	上神戸 上小瀬いきいき向日薬会
神戸	上神戸 庄田いきいきサロンやまの会
神戸	上神戸 我山ふれあい・いきいきサロン
神戸	上神戸 松鶴にこにこサロン
神戸	上神戸 森小瀬いきいきサロン
神戸	下神戸 下神戸森ふれあい・いきいきサロン
神戸	下神戸 古市場ふれあい・いきいきサロン
神戸	下神戸 サロン平成
神戸	下神戸 まるまるサロン
神戸	下神戸 まるまるカフェ
神戸	初川 ぽっこりサロン
神戸	初川 初川カフェ
神戸	上林 上林カフェさくら
神戸	古部 古部いきいきサロン「和」
神戸	古部 古部「和カフェ」
神戸	比士 まごやかクラブ
神戸	比士 早ふる里会
神戸	比士 上出ふれあいサロン
神戸	比士 高瀬えびす会
神戸	朝日ヶ丘町 朝みどり会
きしが台	きしが台 ふれあい・いきいきサロンきしが台
古山	蔵津干 あまなる会
古山	高瀬池 あやめ会
古山	高瀬池 御辺山のスアキ存仲廣たち
古山	磯治原 豊納会
古山	末谷 みつわ会
古山	安場 さくらサロン
古山	安場 けうめい会
古山	湯田 八丁代会
古山	古山界外 コミュニティカフェれいわ(読輪)
花田	予野 詞若会
全域	ゆめが丘ゆめが丘 ゆめが丘シニアサークル「スマイル」
全域	泉の居場所の会



- 買い物難民をなくす仕組み(括弧内は、現行都市マスタープランにおける地域ヒアリング地区名)
- ・日常の買い物において、生協の巡回販売・配達、JAや個人の魚屋が巡回販売(中瀬、友生、比自岐、古山、島ヶ原、丸柱、布引、博要)
  - ・伊勢志摩の答志島の魚屋が月に数回、新鮮な魚介類販売(比自岐)
  - ・1台の車に相乗りして買い物(布引)
  - ・青山地域では、高齢者向け「お買い物無料送迎バス」をスーパーの協力のもと、平成24年より運行
  - ・神戸地区では、地域運行バス「かんべ北斗号」を平成30年より毎週火曜日運行

### とくし丸事業の仕組み



・伊賀市内にスーパーを展開する「A社」は、移動スーパーの仕組みで全国展開する「とくし丸」との提携店で、今後伊賀市内で移動スーパーを展開することが予測される。

とくし丸本部が地域のスーパーと契約し、販売パートナーさんは、その地域のスーパーと契約していただくことになります。また、売上の「+10円ルール」の内、スーパーと販売パートナーさんが、それぞれ5円ずつシェアする仕組みになっています。



## 地域共生社会の実現に向けた地域包括的ケアシステム構築の考え方

- ・地域包括支援センターを東部・中部・南部の3エリアに配置
- ・各支援センターは、社会福祉士・保健師・ケアマネ・事務職員をおき、多様な福祉相談の窓口業務を実施





## 十津川村 高森のいえ

### ①紀伊半島豪雨を教訓に「村内移住」

- ・敷地面積:5,200㎡
- ・施設内容:単身者用3棟(計6戸)、2人世帯用1棟(計2戸)、子育て世帯用1棟(1戸)の5棟で、いずれも地元の木材の利用
- ・老人ホーム、交流拠点、農園などを集約
- ・敷地内にある「ふれあい交流センター」では地元業者による日用品の販売や、出張診療も行われる予定

### ②新集落づくりにアジア景観賞

- ・同賞は国連ハビタット福岡本部などが主催し、アジアの優れた景観などに対して贈られる



■庭など設けられた、ゆったりとしたつくりの高森のいえ(出典:産経WEST)

# 十津川村の現状



村の面積672.38km<sup>2</sup>に  
7つの区、55の大字、  
200余りの集落があり、  
集落が点在



## 高森のいえ構想

## 高森のいえのメリット



- 村営住宅として建設
  - ・介護保険費用に跳ね返らない
  - ・行政による管理運営が可能
- 持ち家があっても  
入居可能  
(村内二地域居住)
  - ・自宅での生活も可能(住まいの選択)
  - ・一人での生活が不安なときは、「高森のいえ」に来て安心できる
- 子育て世帯向け住宅  
共用スペースの併設
  - ・若者による緩やかな見守りによる安心感
  - ・共用スペースによるコミュニティ形成



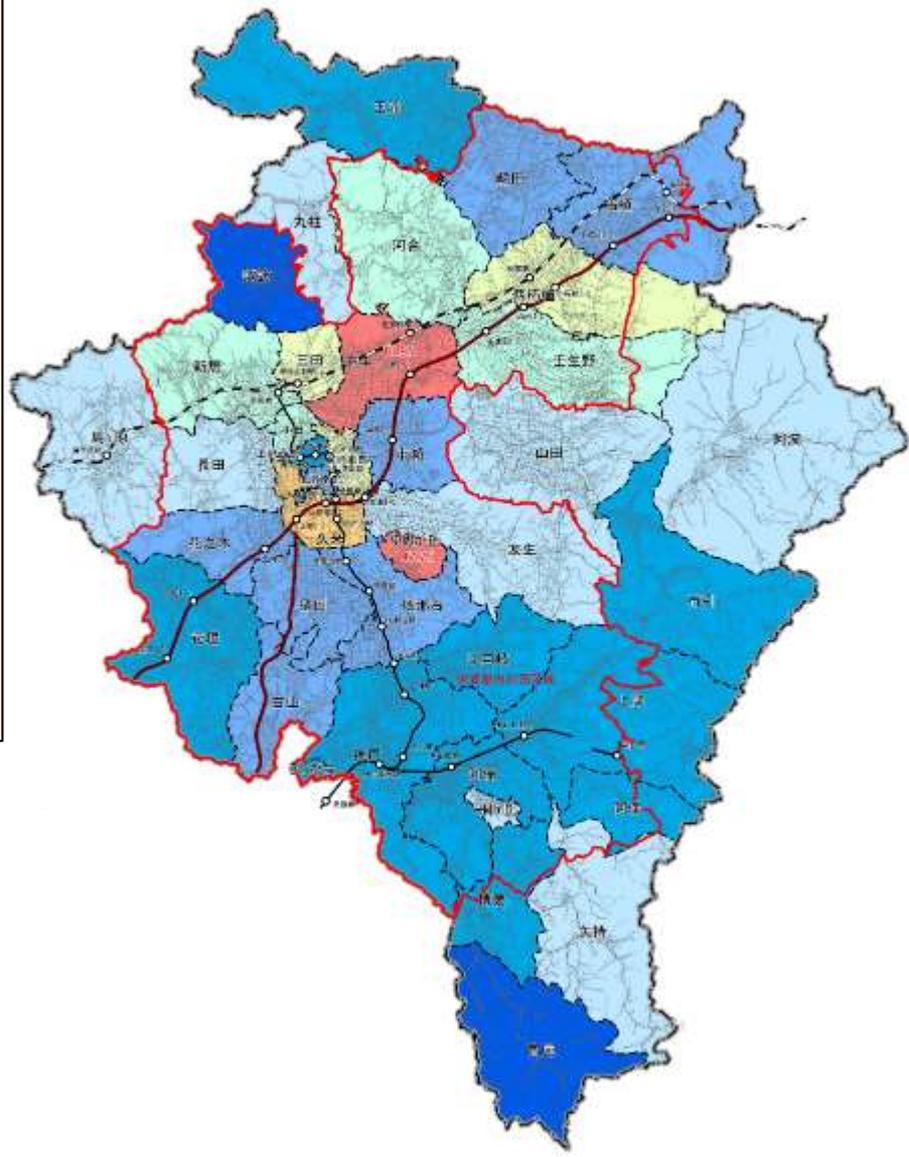
**(論点2)守りの取組**

1. 守りに取組については、住民自治協議による共助のしくみやふれあい・いきいきサロンのような小さな拠点づくり等伊賀流の取組が進んでいるが、将来の人口減少・高齢化に対して十分と考えるか。

**EX:人のつながりの強化**

- ・公共交通に依存しない利便性向上策(移動スーパーやモト医療のような新たなシステムの構築)
- ・市民センター周辺での小さな拠点づくり
- ・SNS等の情報媒体を活用したコミュニティづくり(サイバーとしての拠点づくり)

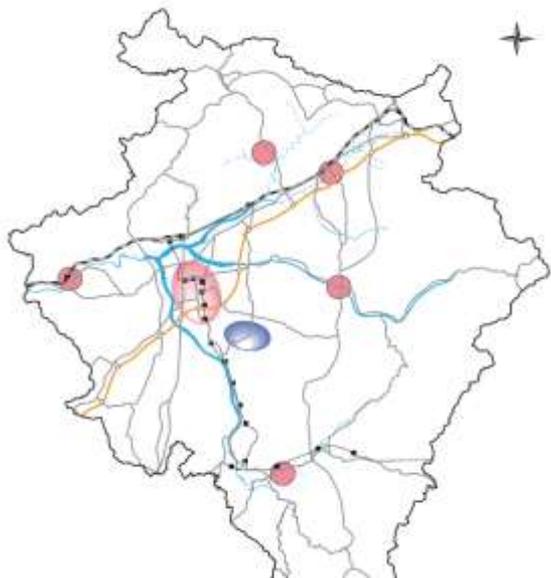
2. 将来人口減少により高齢者だけの集落や見守り等住民同士の自治が難しくなることが予測されるが、「高森のいえ」のような集団移転の対応が伊賀市に必要か。また、他にどのような対策が考えられるか。



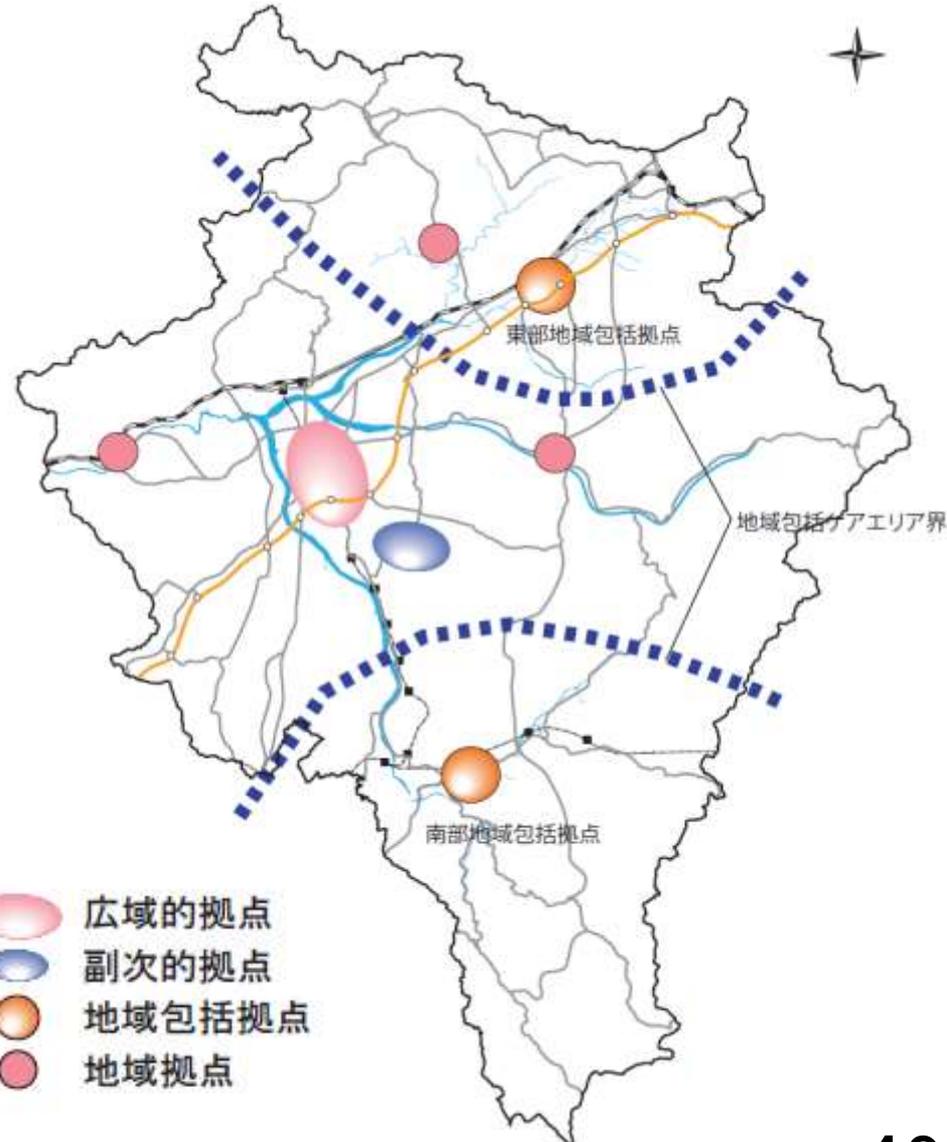
■人口増減率図(住民自治協議会別、2015年～2040年)



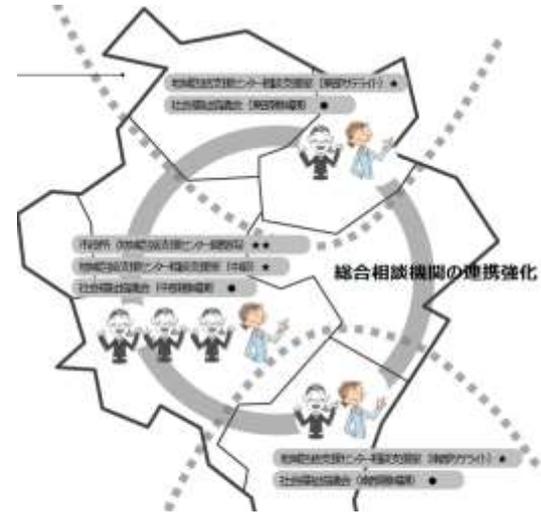
(論点2) 守りの取組(都市的サービスの未来像: 地域包括拠点と地域拠点の役割分担)  
 3. 人口減少と高齢化が進む中、地域包括ケアシステムと連動させた拠点形成に変更



■ 現行都市マスタープランの拠点構成



-  広域的拠点
-  副次的拠点
-  地域包括拠点
-  地域拠点



■ 伊賀市における地域包括ケアのエリア構成

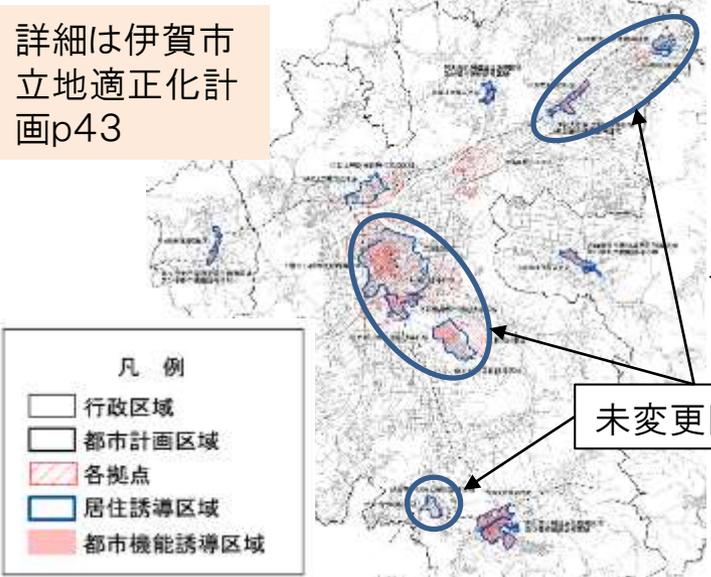
■ 守りの取組に配慮した将来拠点構成



## (論点2)守りの取組(過疎地の再編、移住や地域内移動の受け皿づくり)

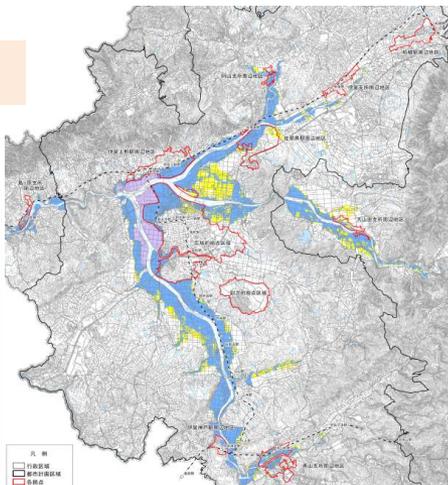
### 4. 災害に対する安全確保と居住環境改善による魅力的居住地づくりのため、拠点型居住地の絞り込み

詳細は伊賀市  
立地適正化計  
画p43



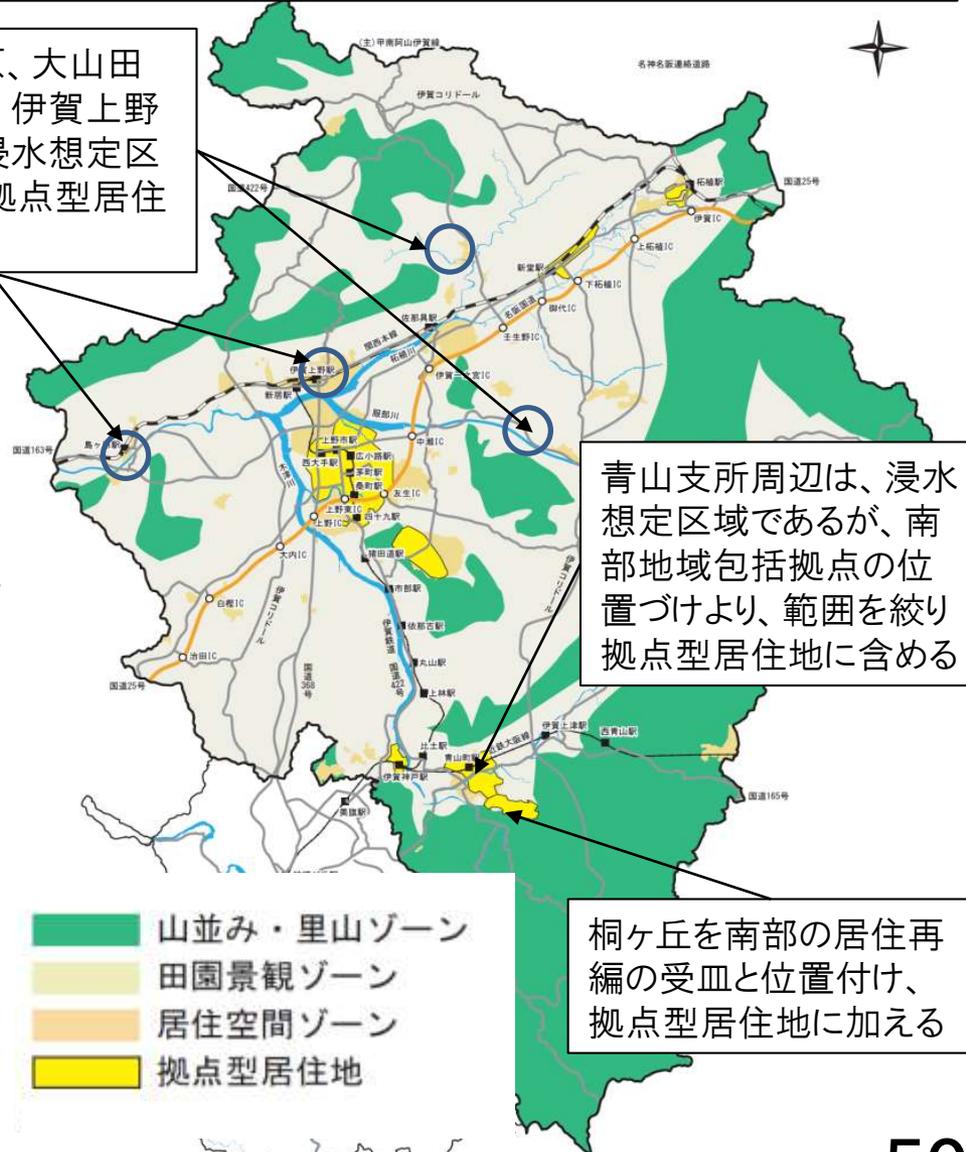
■立地適正化計画の居住誘導区域

拡大図はp12



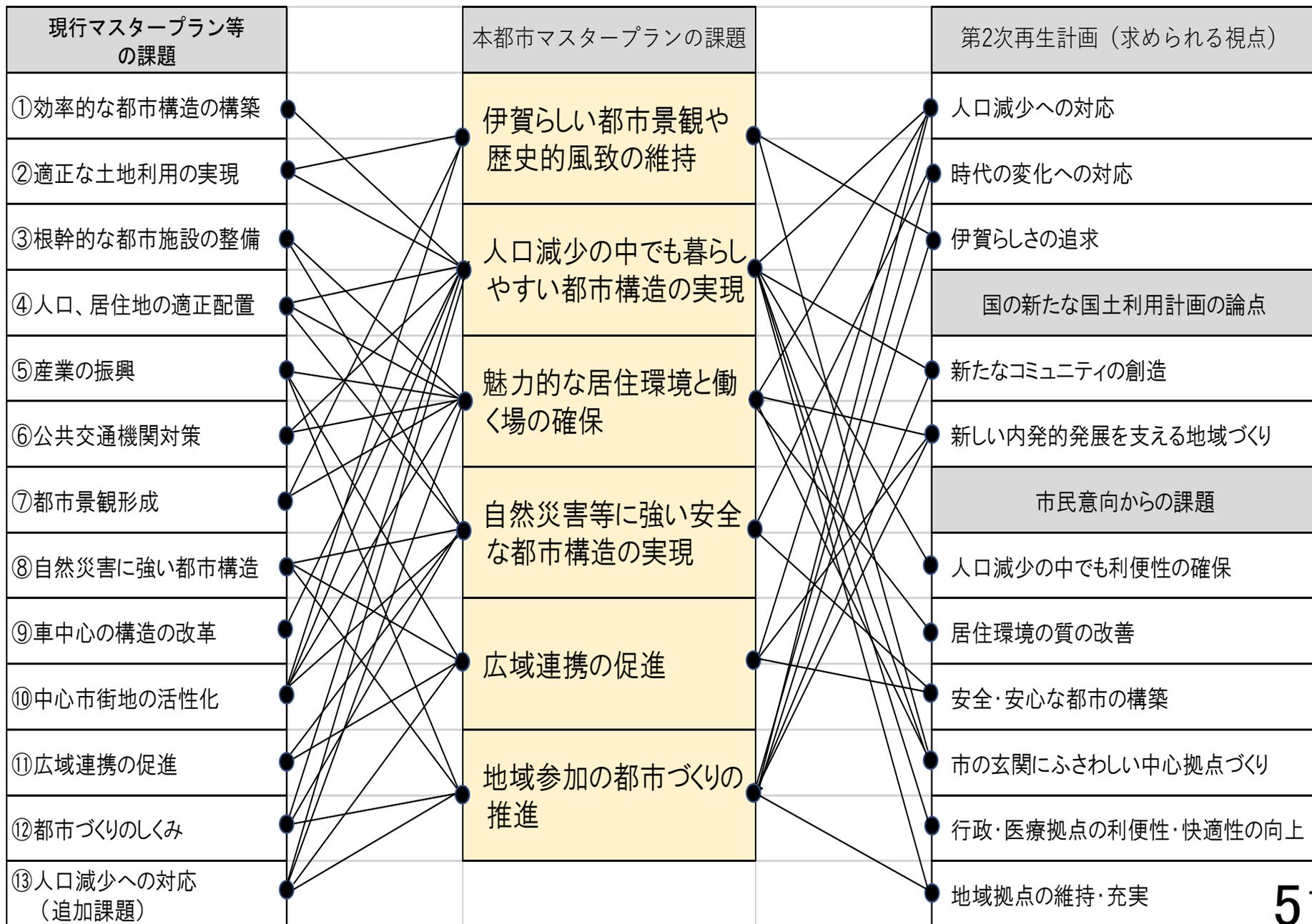
■洪水浸水想定区域(想定規模最大)

阿山、島ヶ原、大山田の支所周辺、伊賀上野駅周辺は、浸水想定区域の関係で拠点型居住地から除く



■拠点型居住地の配置

## 6. 都市マスタープランの主要課題のまとめ





## 伊賀市の将来都市像

市民力による内発的发展をめざす

# 『 伊賀流多核連携型都市 』

